

幼 児 教 育 科

2 年

授業科目名	情報機器演習 I	担当教員名	大城 一之	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①情報機器の知識や基本操作を習得し、ICT教育の実用性を学びつつ課題や目的に応じた文書の作成や周辺機器を用いて他の媒体からの取り込み方法を学習する。									
②Wordでは保育園や幼稚園で使用される文書（年間計画・クラスだよりなど）の保育事例を基に演習課題を構成し、独創性を生かすことができる文書を作成する。									
③Excelを使用し、関数を使用した簡単な表計算を作成する。保育園や幼稚園で使用される児童台帳を編集・装飾し、レイアウトを整えた創造性豊かな課題に取り組む。									
【授業の概要】									
通信端末による情報漏えいの拡大やトラブル対策などを学習し、社会人としてのモラルを身につける。Wordの授業では保育現場で実際に使用されている文書を参考にしてペイントで作成した挿絵、人物や風景の写真を加工した画像をパソコンに取り入れた文書を作り上げていく。ICT教育としてアプリケーションを使用した編集を意識しバランスの整った文章に仕上げる。Excelでは四則演算を理解し、簡単な関数を用いた表作成に取り組む。その表を具体化するためにグラフ化を行い、誰が見ても分かりやすい文書に仕上げていく。到達目標としてホームポジションをマスターし速打を身に付け、1つ1つの作業を丁寧に作成できる技術を目指す。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	Word(1)－マウストレーニング・日本語入力の基本(単語登録・IMEパッド)・文書の構成				【事前】 専門用語を事前に学習しておくこと 【事後】 マウス・キーボード操作の復習				
第2回	Word(2)－インターネットの活用...人権についての資料・情報収集 文書の書式設定・入力機器の基本的な操作と説明				【事前】 ネットに関わる人権侵害の情報をまとめておく 【事後】 文字入力やフォント・色などを確認しておく				
第3回	Word(3)－ページ設定と印刷方法・キーボード操作 ICT教育:タイピングアプリの使用				【事前】 タイピング練習で指を温めておく 【事後】 ブラインドタッチの練習(タイピングアプリ使用)				
第4回	Word(4)－テキストの配置・段組み・スタイルの変更 文章登録(ファイルのしくみ、拡張子)について				【事前】 本日学習するテキストの読み込み 【事後】 学んだ編集機能を使用し提出物の作成				
第5回	Word(5)－簡単な書式設定と文字フォントの編集 ヘッダーとフッターの設定・テキストの移動と削除				【事前】 配布プリントにてタイピング練習 【事後】 完成した提出物のヘッダーフッターを入力				
第6回	Word(6)－罫線・表の機能編集と削除 セル内の文字入力 文字列の方向・縦書きと横書き・文字配置				【事前】 表作成での専門用語の確認 【事後】 数種類の表スタイルを使用し表作成をする				
第7回	Word(7)－テキストボックス・クリップアートの挿入、書式設定 クリップアートの加工と保存				【事前】 画像・図形の挿入に関する情報収集 【事後】 学んだ図形での枠線変更などを試みる				
第8回	Word(8)－図形ツールの説明・ワードアートの書式設定 スタイルの変更・文字列の折り返し				【事前】 提出物でのレイアウトを調整しておく 【事後】 図形とワードアートの融合して文書に挿入する				
第9回	Word(9)トリミング・色・明るさ・コントラスト、絵・写真の挿入と編集 アート効果・背景の削除・修正				【事前】 提出物に使用する写真の準備・整理 【事後】 切り取った画像の添付を繰り返す				
第10回	Word(10)－まとめ...ビジュアルコンテンツの作成 ICT教育:アプリでの案内カード作成、園だよりの印刷				【事前】 今までの提出物の見直しと調整 【事後】 Word機能・編集・図形加工の復習				
第11回	Excel(1)－Excelの基本操作と用語説明 セルへのデータ入力 と更新、塗りつぶしとフォントサイズ変更				【事前】 テキストP212～P225の読み込み 【事後】 Excelを使用して出来る機能を理解すること				
第12回	Excel(2)－作表機能と基本的なワークシート編集・セルの書式設定 (セル幅変更、高さ調整、結合、移動)・入力規則について				【事前】 Excelを展開し、Wordの機能と比較しておく 【事後】 学習した機能を取り入れた表を完成させる				
第13回	Excel(3)－四則演算と関数計算(記述形式・算術演算子・比較演算子について) 相対参照と絶対参照・タイピングテスト				【事前】 テキスト235～P240を読んで理解を深めておく 【事後】 タイピングテストによりブラインドタッチ確認				
第14回	Excel(4)－データ入力規制の設定・児童台帳作成 標準関数の使い方、オートコンプリート				【事前】 データ入力の用語をまとめておく 【事後】 提出物「児童台帳」の打ち込み				
第15回	Excel(5)－グラフの作成・編集機能(種類・グラフタイトル・縦横 ラベル・データラベル・凡例について)				【事前】 グラフに必要な表を完成させておくこと 【事後】 色々な棒・円・折れ線グラフを使用してみる				

【学生に対する評価:各評価項目については評価割合（%）を含む】

提出物（70%）、授業貢献度（5%）、ノート提出（5%）、タイピングテスト（20%）での総合評価

【テキスト及び参考書】

「保育者のためのパソコン講座 Windows10/8.1/7 対応版」（萌文書林）

参考図書

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）

【学生へのメッセージ】

提出課題が多く、速打で完成させないと期限に間に合わなくなります。ホームポジションを覚え、ブラインドタッチができるように、しっかりタイピング練習をしてください。ノートは1冊使用しません。ルーズリーフで代用可能です。毎時間、白板に授業内容を書いていますのでノートに記入してください。

パソコン室では土足厳禁、飲食禁止、また消しゴムの使用が禁止ですのでルールを守りましょう。

【備 考】

予習・復習として空いている時間を利用し、タイピング練習を実施する。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail: ooshiro@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:

授業 科目名	情報機器演習Ⅱ	担当 教員名	大城 一之	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	2年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①ICT機器やSNSの利用方法を見直すとともに職場で活用できる幅広い知識を深め、通信機器による個人の情報漏えいやモラルについて学ぶ。									
③前期で学んだWordの機能をExcelに生かすことが出来るように互換性を学習する。									
④タイピングソフトやテキスト練習問題を活用し、巧速な文書が打てるように練習を積み重ねる。									
⑤PowerPointでは今まで学んだ知識や技術、ICT機器を使用したプレゼンテーションを作成し、個人発表を行う。									
【授業の概要】									
情報化の進展に対して大量の情報を的確な選択を行うとともに、SNSでの情報通信ネットワークを適切に活用し、主体的に情報を選択・処理・発信ができる能力を育成する。ネット依存症の増加やSNS詐欺、対人中傷が多く生じているため、正しい利用方法について理解を深める。									
PowerPointでは卒業課題としてWord機能の復習を兼ねたICT導入にて編集された画像処理を行い、画面の切り替えやアニメーションを活用した各個人のオリジナルプレゼンテーションを作成発表する。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	Excel(6)－ワークシートの書式設定・グラフのレイアウト 表の集計と並べ替え				【事前】 前回作成したグラフ作成の手順見直し 【事後】 元となる表の作成及び関数計算				
第2回	Excel(7)－グラフ内でのデータ抽出・テーブル操作 グラフ種類やデザインの変更				【事前】 グラフ種類・デザイン・データラベルの確認 【事後】 データ抽出の方法の反復学習				
第3回	Excel(8)－クラス表の作成・列見出しの入力と列幅変更 合計計算と平均、PHONETIC(フォネティック)関数				【事前】 列幅変更とレイアウトの調整をしておくこと 【事後】 新しい関数の手順方法をまとめる				
第4回	Excel(9)－年間カレンダーの作成・雛形シート、日付の計算式 「月」の書式設定、ICT教育:画像のテンプレート使用				【事前】 表作成に関して素早い編集機能を見つけておく 【事後】 画像編集アプリの使用方法を考える				
第5回	Excel(10)－Excelのまとめ、身体計測記録台帳の作成 表作成、グラフ表示、データ分析				【事前】 今まで学習したExcelの機能を把握する 【事後】 提出物に組み込んでいる機能の復習				
第6回	インターネットの活用方法...電子媒体(携帯・タブレットなど)の 使用について・使用上の注意点				【事前】 ICTを使用した就職先での仕事について 【事後】 留意点を考えて、それを文章化しておくこと				
第7回	SNSとICT機器の利用方法...ネットサーフィンによる人権問題 についての情報収集				【事前】 人権侵害について自分なりの意見をまとめておく 【事後】 情報収集した中での上位意見の集約をする				
第8回	Power Point(1)－プレゼンテーションの知識と基本技能 デザインとスライドのひな型からプレゼン作成				【事前】 テキスP328～P339までをよく読んでおくこと 【事後】 プレゼン内容の情報収集				
第9回	Power Point(2)－スライドの作成と機能の習得 ICT教育:作図と写真の組み合わせ・外観のイメージ				【事前】 スライドで使用する画像・写真の準備 【事後】 時間内に収まるスライド枚数の調整				
第10回	Power Point(3)－アニメーション編集と画面の切り替え・動作 の挿入、効果の変更、スライドインの流れ				【事前】 スライドのデザインやレイアウトの作成 【事後】 アニメーションを追加し動きを見ておく				
第11回	Power Point(4)－アニメーション効果のコピー・軌跡の設定 オブジェクトの表示と再生				【事前】 画面の切り替えを自動化しておく 【事後】 アニメーション軌跡を自分なりに作成				
第12回	Power Point(5)－スライド内の動画・音声挿入、タイトルの追加 表示オプション機能の設定 タイピングテスト				【事前】 タイピング練習・動画・音声の準備 【事後】 プレゼン内容との音声のマッチングを調整				
第13回	Power Point(6)－スライドショーの実行と中断と終了 ICT教育:模擬プレゼンテーションと互換性				【事前】 他のプレゼンを確認し良い所を知っておく 【事後】 リモートでのプレゼンを確認				
第14回	Power Point(7)－プレゼンテーションの実施と発表① 個人発表・卒業制作として				【事前】 発表する内容をノートに記録しておく 【事後】 他の意見を聞き、次回に生かすように考える				
第15回	Power Point(8)－プレゼンテーションの実施と発表② 個人発表・卒業制作として(振り返り)				【事前】 前に発表した人の良い点悪い点を改善する 【事後】 反省を踏まえ、自分でもう一度繰り返しておく				

【学生に対する評価:各評価項目については評価割合（%）を含む】

提出物（70%）、授業貢献度（5%）、ノート提出（5%）、タイピングテスト（20%）での総合評価

【テキスト及び参考書】

「保育者のためのパソコン講座 Windows10/8.1/7 対応版」（萌文書林）

参考図書

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）

【学生へのメッセージ】

提出課題が多く、速打で完成させないと期限に間に合わなくなります。ホームポジションを覚え、ブラインドタッチができるように、しっかりタイピング練習をしてください。ノートは1冊使用しません。ルーズリーフで代用可能です。毎時間、白板に授業内容を書いていますのでノートに記入してください。

パソコン室では土足厳禁、飲食禁止、また消しゴムの使用が禁止ですのでルールを守りましょう。

【備 考】

予習・復習として空いている時間を利用し、タイピング練習を実施する。タブレットを使用し、実用性の高いアプリケーションの検索を行う。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail:ooshiro@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:

授業 科目名	健康指導法	担 当 教員名	高西 敏正	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	2年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。</p> <p>1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>2) 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>5) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>									
【授業の概要】									
幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第1回	オリエンテーション・体ほぐし（運動遊び）				【事前】 シラバスを読み内容を把握する 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第2回	運動指導法① <歩く・走る>				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第3回	運動指導法② <飛ぶ・打つ>				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第4回	運動指導法③ <回る・転がる（マット運動）>				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第5回	運動指導法④ <回る・ぶら下がる（鉄棒）>				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第6回	運動指導法⑤ <投げる・捕る・持つ・運ぶ>				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第7回	運動指導法⑥ <押す・引く>				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第8回	運動指導法⑦ <渡る・くぐる>				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第9回	運動指導法⑧ <リズムトレーニング>外部講師				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第10回	幼児創作ダンス グループ別創作① グループ分け				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第11回	幼児創作ダンス グループ別創作② 振付の創作				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第12回	幼児創作ダンス グループ別創作③ 全体の構成				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第13回	幼児創作ダンス グループ別創作④ ゲネプロ				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第14回	幼児創作ダンス 創作ダンス発表会				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第15回	振り返り・まとめ				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
【学生に対する評価】									
授業に対する取り組み・態度（70%）、レポート・発表（30%）などによる総合評価									

【テキスト及び参考書】

必要に応じてプリントを用意

「幼稚園教育要領解説」(平成30年3月告示 文部科学省) (フレール館)

「保育所保育指針解説」(平成30年3月告示 厚生労働省) (フレール館)

参考図書 「幼児体育教本」(同文書院)

【学生へのメッセージ】

常日頃より健康管理に留意し、授業に臨めるように事前の準備(体操服・体育館シューズ)をしておくこと。

習熟に時間を要する課題については早めに取り組んでおくこと。

『笑顔で・明るく・元気よく』子どもと接することのできる保育者を目指して楽しく学びましょう。

【備考】

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail:takanishi@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:

授業科目名	人間関係指導法	担当教員名	爪田 寿子	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
目標及び内容									
(1) 幼稚園教育要領や保育所保育指針に示された幼児教育の基本をふまえ領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。									
1) 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「人間関係」のねらい及び内容について全体構造を理解している。									
2) 領域「人間関係」のねらい及び内容をふまえ、子どもが人と関わる力を養うために必要な経験や身に付けるべき内容と指導上の留意点を理解している。									
3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。									
4) 子どもの集団生活を通して様々な人と関わる経験と、就学後の生活とのつながりについて理解している。									
指導法と授業設計									
(2) 子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。									
1) 子どもの心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し保育構想に活用することができる。									
2) 領域「人間関係」の特性及び子どもの体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し保育構想に活用することができる。									
3) 指導案の構想を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。									
4) 模擬保育やロールプレイとその振り返りを通して、保育を改善する方法を理解している。									
5) 領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り保育構想に取り入れることができる。									
【授業の概要】									
領域「人間関係」のねらい及び内容について、子どもの姿と保育実践を関連させて理解を深める。子どもの人間関係を「生涯を通じた社会性の基礎」という長期的な視点で理解し、事例や映像から実際の子どもの想定することで、保育を具体的に構想し実践する方法を身に付ける。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「人間関係」について				【事前】幼稚園教育要領及び保育所保育指針を読む。				
					【事後】教科書領域「人間関係」について理解したことをまとめる。				
第2回	子どもの社会性をとらえる視点				【事前】社会性とは何か調べておく。				
					【事後】教科書第1章Ⅰ社会性をとらえる視点についてまとめる。				
第3回	かかわりの視点から見た子どもの発達と環境				【事前】領域「人間関係」と「環境」の関係について調べてまとめる。				
					【事後】教科書第1章ⅡとⅢをまとめる。				
第4回	社会的存在としての人間・子ども				【事前】「社会的存在としての人間」について調べておく。				
					【事後】教科書第2章Ⅰをまとめる。				
第5回	子どもにとっての家族				【事前】「家族」とは何か調べておく。				
					【事後】教科書第2章Ⅱ2を読んでまとめる。				
第6回	子どもにとっての地域				【事前】「地域」とは何か調べておく。				
					【事後】教科書第2章Ⅱ3を読んでまとめる。				
第7回	子どもにとっての保育施設				【事前】保育者の役割について自分の考えをまとめておく。				
					【事後】教科書第2章Ⅱ4を読んでまとめる。				
第8回	子どもの集団生活				【事前】「集団」の意味について調べておく。				
					【事後】教科書第2章Ⅲを読んでまとめる。				
第9回	園生活と「人とかかわり」の育ち				【事前】園生活の中でどんな人とかかわりがあるか自分の考えをまとめておく。				
					【事後】教科書第4章Ⅰを読んでまとめる。				

第10回	自律性の育ち	【事前】 「自律」とは何か調べておく。
		【事後】 子どもの育ちにおける「依存」から「自律」への流れをまとめる。
第11回	遊びの始まり	【事前】 「仲間」とは何か調べておく。
		【事後】 教科書第4章Ⅱを読んでまとめる。
第12回	グループ活動について	【事前】 リーダーとフォロアーについて調べておく。
		【事後】 教科書第4章Ⅲを読んでまとめる。
第13回	「人との関わり」と言葉	【事前】 領域「人間関係」と「言葉」の関係を調べてまとめる。
		【事後】 教科書第4章Ⅳを読んでまとめる。
第14回	「けんか」への対応	【事前】 子ども同士の「けんか」の意義について調べてまとめる。
		【事後】 教科書第5章Ⅰを読んでまとめる。
第15回	総まとめ	【事前】 教科書第8章事例研究を読んでまとめておく。
		【事後】 領域「人間関係」で学んだことは何かまとめる。
【学生に対する評価:各評価項目については評価割合(%)を含む】 定期試験(60%) レポート提出(20%) 授業への取り組み(20%) 等による総合評価		
【テキスト及び参考書】 新保育内容シリーズ 新訂 「子どもと人間関係 人との関わりの育ち」 大場牧夫・大場幸夫・民秋 言 共著(萌文書林) 新保育ライブラリ 保育内容 「人間関係」 小田豊・奥野正義 編著(北大路書房) 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省) フレーベル館 「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省) フレーベル館 生活事例からはじめる -保育内容- 人間関係		
【学生へのメッセージ】		
【備考】		
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail: 学校専用E-mail: shin@tohaya.ac.jp		

授業科目名	環境指導法	担当教員名	原賀 いずみ	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】 (1) 領域「環境」のねらい及び内容 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と小学校以降の教科等とのつながりを理解している。 (2) 領域「環境」の指導方法及び保育の構想 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 2) 領域「環境」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。									
【授業の概要】 領域「環境」は、「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」の具体的な指導場面で活用できるネイチャーゲームの手法や、実際に使える環境紙芝居の政策を行う。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 春みつけ・春のお弁当作り				【事前】教科書の6章を読み予習解題を行う				
					【事後】春みつけドキュメンテーション				
第2回	ネイチャーゲームの概要について・折り紙虫づくり				【事前】「体験と学びを深めるネイチャーゲーム」を読む				
					【事後】初級講座の準備を確認する				
第3回	ネイチャーゲーム入門講座				【事前】周囲の自然環境に関心をもってみる				
					【事後】振り返りを行う				
第4回	ネイチャーゲーム入門講座				【事前】計画書を作成する				
					【事後】グループで話し合う				
第5回	保育実習に行った園の屋外環境構成を分析するイラストマップに落とし込む				【事前】実習園の屋外環境のイラスト作成				
					【事後】実習園の屋内外環境評価する				
第6回	苧田幼稚園の畑の観察・野菜調べと野菜の苗植え				【事前】苧田幼稚園の畑の観察				
					【事後】野菜の苗植え観察記録をつける				
第7回	お米の学習・バケツ稲の田植え				【事前】お米の栽培に関心を持つ				
					【事後】バケツイネの栽培記録をつける				
第8回	領域「環境」の内容をテーマとした紙芝居制作①紙芝居の歴史とあなき技法の説明・絵本との違い				【事前】絵本や紙芝居の効果について考える				
					【事後】紙芝居の制作の仕方を身につける				
第9回	環境紙芝居のテーマを決め、箱書き・雛型を作る				【事前】紙芝居のテーマを決める				
					【事後】紙芝居の構成を考える				
第10回	環境紙芝居の本書き				【事前】紙芝居の画材や効果を考える。				
					【事後】紙芝居の画材や効果を試す				
第11回	本書き脚本がき				【事前】脚本を考える				
					【事後】脚本を書く				
第12回	環境紙芝居の発表会				【事前】発表練習をする				
					【事後】友達の作品から学ぶ				

第13回	海の豊かさを感じよう	【事前】 海の生態系について関心を持つ 【事後】 子どもたちに伝える方法を考える。
第14回	地域環境の施設・小学校との連携	【事前】 領域「環境」の内容を教科書を使ったまとめ 【事後】 領域「環境」の振り返りをする
第15回	地球のつながり 荏田町の国際交流について 全体 のまとめ	【事前】 荏田町の地域の特性を知る 【事後】 これからの保育環境で大切なことを考え合う
【学生に対する評価】		
定期試験(30%) 授業への取り組み(50%) レポート提出(20%)等による総合評価		
【テキスト及び参考書】		
テキスト 『体験と学びを深めるネイチャーゲーム』(日本シェアリングネイチャーゲーム協会) 『新時代の保育双書 保育内容環境-第3版』秋田喜代美他 □ 「はる・なつ・あき・ふゆ」の図鑑(フレーベル館)		
参考書・参考資料等 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省) (フレーベル館) 「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) (フレーベル館)		
【学生へのメッセージ】		
乳幼児期の子どもの世界は、とても不思議なことばかりです。保育者は、子どもたちの不思議、疑問に答えることばかりに気をとられ、四季の変化や自然界の魅力を忘れがちになります。ぜひ一緒に「たくさんのお不思議」をみつけましょう。		
【備 考】		
【担当教員の連絡先等】		
学校専用E-mail : shin@tohaya.ac.jp		

授業科目名	言葉指導法	担当教員名	柴田 康弘	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>幼児の言葉に関する実態や課題を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた上で、具体的な保育の場面を想定し保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4) 領域「言葉」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>1) 幼児の発達や興味、関心等に即した保育構造の重要性を理解している。</p> <p>2) 領域「言葉」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。</p> <p>3) 幼児の発達や学びを理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4) 保育実践とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>									
【授業の概要】									
<p>領域「言葉」の指導の理解を深め、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。「言葉」の機能を理解したうえで、幼児にとっての「児童文化財」の意義を理解し、紙芝居や絵本・言葉遊び等の実践に取り組む。幼児の言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする。教材や実践に関する知識を身に付ける。</p>									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	幼稚園教育要領「言葉」と評価について				【事前】 幼稚園教育要領解説(範囲は事前に提示)を通読しておく 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第2回	実習を通して体験した子どもの言葉の育ちと課題についてのグループ討議(実習記録などを準備)				【事前】 実習日誌、記録等の準備 【事後】 グループワークでの内容をまとめ発表準備				
第3回	実習を通して体験した子どもの言葉の育ちと課題についてのグループ発表				【事前】 発表資料の作成、準備 【事後】 他のグループの発表内容をまとめ、授業レポートの作成				
第4回	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する①(オペレッタの制作)				【事前】 オペレッタ制作の準備 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第5回	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する②(オペレッタの実演)				【事前】 オペレッタ実演の準備 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第6回	子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する③(オペレッタの振り返りと評価)				【事前】 オペレッタの振り返りを記入しておく 【事後】 授業レポートの作成、授業レポートの作成				
第7回	言葉に対する感覚を豊かにする実践①:「紙芝居」(日本文化と紙芝居の実際、乳児)				【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 授業レポートの作成、遊びを復習する				
第8回	言葉に対する感覚を豊かにする実践②:「紙芝居」(日本文化と紙芝居の実際、幼児、児童)				【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 授業レポートの作成、遊びを復習する				
第9回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践の構想(かるた遊び)				【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 創作かるたの制作				
第10回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財を用いた実践の実践(創作かるた遊び)				【事前】 グループでかるた制作、資料準備 【事後】 他のグループの発表内容について授業レポートの作成				
第11回	言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財(幼児の年齢や時期を考えた物語の発表)				【事前】 クリスマス絵本の準備 【事後】 授業レポートの作成、演習内容の復習				
第12回	言葉による「伝え合い」を育む保育者の関りの実際(DVD視覚教材から学ぶ)				【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 授業レポートの作成、演習内容の復習				

第13回	言葉と国語教育 (幼児教育から小学校の教科のつながり)	【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成
第14回	幼児の話し言葉と書き言葉の実際 (附属幼稚園年長児と触れ合い交流授業)	【事前】 配布資料を通読し、交流授業のねらいの確認 【事後】 交流会の振り返りの記入、授業レポートの作成
第15回	豊かな言葉を生み出す基盤	【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 配布資料をまとめ、授業レポートの作成
【学生に対する評価】 授業への取組み（グループワーク・教材製作・模擬保育など）（30%）、授業レポート（授業での学びの振り返り（復習）と次回の授業に向けて（予習）（20%）、定期試験（50%）等による総合評価		
【テキスト及び参考書】 <テキスト> コンパス 保育内容「言葉」第2版(建帛社) 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省) (フレーベル館) 「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館) <参考書・参考資料等> 「ことばの発達の謎を解く」今井むつみ (ちくまプリマー新書)		
【学生へのメッセージ】 授業では、資料も配布します。ファイルを準備してください。授業の初めには前回の授業の復習も行います。		
【備 考】		
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail : shibata@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail :		

授 業 科目名	造形表現指導法	担 当 教員名	加来 栄治	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	2年 前期
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>(1) 領域「表現」のねらい及び内容</p> <p>一般目標： 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。表現と環境の領域に跨る体験を作る活動を生み出す力を養う。</p> <p>到達目標： 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「表現」に関わる幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している</p> <p>(2) 保育内容の指導方法と保育の構想</p> <p>一般目標： 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>到達目標： 1) 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2) 領域「表現」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 3) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>「幼児と表現(造形)」での経験をふまえ、さらなる表現力の向上を目指すとともに、領域「表現」のねらい及び内容をおさえた造形表現活動について理解を深めたい。幼児一人ひとりの、表現したいという気持ちを大切に、その意欲を十分に発揮させることができるよう、具体的な保育を想定しながら作品制作や模擬保育を行い、造形活動が多教科にわたるつながりがあるという視野をもって、環境の構成や言葉掛けについて考察していく。</p> <p>附属苅田幼稚園の園児との交流授業を通し、お互いに関わり合いながら学校行事や園行事に向けた制作物を共同作業で作っていく。</p>									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーションほか				【事前】「保育をひらく造形表現」を読みイメージを膨らませる 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第2回	ちぎり絵の技法を用いた制作活動①				【事前】 提示された課題についてイメージを膨らませる 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第3回	ちぎり絵の技法を用いた制作活動②				【事前】 提示された課題についてイメージを膨らませる 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第4回	ダンボール工作①				【事前】 ダンボール等、必要な材料を準備しておく 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第5回	ダンボール工作②				【事前】 ダンボール等、必要な材料を準備しておく 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第6回	ダンボール工作③				【事前】 作業工程を考えて、必要な準備を行なう 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第7回	ダンボール工作④				【事前】 作業工程を考えて、必要な準備を行なう 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第8回	附属苅田幼稚園「運動会入場門」デザイン作成				【事前】 提示された課題についてイメージを膨らませる 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する□				
第9回	附属苅田幼稚園「運動会入場門」制作①				【事前】 提示された課題についてイメージを膨らませる 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第10回	附属苅田幼稚園「運動会入場門」制作②				【事前】 ダンボール等、必要な材料を準備しておく 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				
第11回	附属苅田幼稚園「運動会入場門」制作③				【事前】 作業工程を考えて、必要な準備を行なう 【事後】 振り返りシートに授業感想等を記入する				

第12回	附属苅田幼稚園「運動会入場門」制作④園児交流	【事前】作業工程を考えて、必要な準備を行なう 【事後】自分のこれまでを振り返る
第13回	附属苅田幼稚園「運動会入場門」制作⑤園児交流	【事前】作業工程を考えて、必要な準備を行なう 【事後】振り返りシートに授業感想等を記入する
第14回	附属苅田幼稚園「運動会入場門」完成	【事前】制作物の仕上げをイメージし、必要な準備を行なう 【事後】振り返りシートに授業感想等を記入する
第15回	授業のまとめ	【事前】授業の振り返りをする 【事後】授業振り返りレポートの提出□
【学生に対する評価】 作品による評価（60%）、レポート提出（20%）、 グループワークを含めた授業への積極的な取り組み（10%）、 授業のための資料や材料収集、アイデアスケッチ等の準備を含めた予習復習課題(10%)等の総合評価		
【テキスト及び参考書】 テキスト 「保育をひらく造形表現」(槇 英子 著) 萌文書林 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省) (フレーベル館) 「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省) (フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) (フレーベル館) 参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。		
【学生へのメッセージ】 <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆、のり、はさみ、カッターを、筆箱の中に常備しておいてください。 ・課題により上記以外の必要な道具や材料があれば、事前に伝えますので準備してください。 ・授業を心から楽しむために、絵の具等で汚れても良い服装(作業着エプロン着用可)で受講してください。 ・授業をより有意義なものにするために、あらかじめアイデアスケッチ等を予習・復習のための課題にすることがあります。 		
【備考】		
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail: kaku@tohaya.ac.jp		

授業科目名	特別支援教育	担当教員名	榎本 郁美	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>(1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について知る。</p> <p>1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。</p> <p>2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解する。</p> <p>3) 視覚障がい・聴覚障がい・知的障がい・肢体不自由・病弱等を含む様々な障がいのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難について基礎的知識を身に付ける。</p> <p>(2) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。</p> <p>1) 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。</p> <p>2) 特別支援教育の多様な場及び「自立活動」の意義と内容を理解する。</p> <p>3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成の意義と方法を理解する。</p> <p>4) 特別支援教育コーディネーター、関係機関、家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解する。</p> <p>(3) 障がいはないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について理解する。</p> <p>1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。</p>									
【授業の概要】									
<p>障がいのある子どもたちの教育の歴史を振り返り、これまでの教育制度の変遷をたどることで、現在目指している共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築の意義を理解する。</p> <p>また、各障がいの特性や障がいに応じた教育、支援の必要な子どもたちの一人一人の発達の状態、障がいの状況・程度に応じた支援、指導方法、配慮点等について疑似体験、グループセッション、DVD視聴等も体験しながら習得する。</p> <p>さらに、障がいの早期発見、早期支援の重要性を理解し、保護者、関係機関との連携、就学から自立に向けた生涯を通じた円滑な移行についての理解を深める。</p>									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション				【事前】シラバスに目を通しておくこと				
					【事後】障がい児者との交流やかかわりをまとめる				
第2回	障がいの概念と共生社会				【事前】共生社会に必要な理念について情報収集する				
					【事後】保育者として障がいのある幼児へのかかわり方についてまとめる				
第3回	特別支援教育の理念と制度				【事前】特別支援教育の概念について調べる				
					【事後】現在と過去の教育制度を比較し、まとめる				
第4回	子どもの理解と支援・指導 －視覚障がい－				【事前】視覚障がいに関する情報収集をする				
					【事後】視覚障がい児へのかかわり方をまとめる				
第5回	子どもの理解と支援・指導 －聴覚障がい－				【事前】聴覚障がいに関する情報収集をする				
					【事後】聴覚障がい児へのかかわり方をまとめる				
第6回	子どもの理解と支援・指導 －知的障がい－				【事前】知的障がいに関する情報収集をする				
					【事後】知的障がい児への関わり方をまとめる				
第7回	子どもの理解と支援・指導 －肢体不自由－				【事前】肢体不自由に関する情報収集をする				
					【事後】肢体不自由児へのかかわり方をまとめる				
第8回	子どもの理解と支援・指導 －病弱・身体虚弱、重度重複障がい－				【事前】病弱、重度重複障がいに関する情報収集をする				
					【事後】病弱児、重度重複障がい児へのかかわり方をまとめる				
第9回	子どもの理解と支援・指導 －言語障がい－				【事前】言語障がいに関する情報収集をする				
					【事後】言語障がい児へのかかわり方をまとめる				
第10回	子どもの理解と支援・指導 －情緒障がい－				【事前】情緒障がいに関する情報収集をする				
					【事後】情緒障がい児へのかかわり方をまとめる				

第11回	子どもの理解と支援・指導 －自閉症スペクトラム－	【事前】自閉症スペクトラムに関する情報収集をする 【事後】自閉症スペクトラム児へのかかわり方をまとめる
第12回	子どもの理解と支援・指導 －LD－	【事前】LDに関する情報収集をする 【事後】LD児へのかかわり方をまとめる
第13回	子どもの理解と支援・指導 －ADHD－	【事前】ADHDに関する情報収集をする 【事後】ADHD児へのかかわり方をまとめる
第14回	障がいはないが特別の教育的ニーズのある子どもの理解と支援・指導 保護者や関係機関との連携	【事前】虐待や貧困に関する情報収集をする 【事後】教育機関、福祉機関との関係を整理する
第15回	障がい者の自立と就労支援	【事前】障がい者の就労に関する情報収集をする 【事後】障がいのある幼児に関わる教育者としての心構えをまとめる
【学生に対する評価】 定期試験（筆記）（70%）、授業内課題及び受講態度（30%）等による総合評価		
【テキスト及び参考書】 「障害のある子どもの保育・教育」（建帛社） 障がいに応じた教育現場等のDVD視聴、障がいの疑似体験、グループセッション等を適宜用いる。 文部科学省「特別支援学校学習指導要領・特別支援学校（幼稚部）教育要領」2017年 文部科学省「幼稚園教育要領」（フレーベル館）2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）2017年 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所「特別支援教育の基礎・基本 2020」2020年 内閣府「障害者白書」2020年		
【学生へのメッセージ】 障がいのある幼児に対し、個別のきめ細かい支援や生涯を見通した保育活動ができるような、特別支援教育の理解と実践力をもった幼児教育の専門家をめざしてほしいと思います。		
【備考】		
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail:enomoto@tohaya.ac.jp 学校専用E-mail:		

授 業 科 目 名	教育方法論	担 当 教 員 名	木本 節子	単 位 数	2	授 業 区 分	講 義	開 講 時 期	2 年 前 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
1. 幼稚園教育要領に示された教育の基本を踏まえ、これからの社会を担う幼児たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法を理解する（幼稚園教育要領前文の趣旨に沿った教育方法を理解する。）									
1) 教育方法の基本を理解する。（保育形態・保育の順序・環境による保育）									
2) 幼児にふさわしい生活について理解する。									
3) 遊びを通じての指導・総合的指導について理解する。									
4) 幼児一人一人の特性に応じて、発達の課題に即した指導について身に付ける。									
2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、保育の順序や展開方法などを身に付ける。									
1) 幼児に対する「教育方法」の特性を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、学生自身がICTを活用する機会を設け、アクティブラーニングの本質を理解する。									
2) 幼児の「非認知能力」を育てる為の適切な環境について理解する。（評価の基礎的な考え方を理解している）									
3) 情報機器を活用して効果的に教材等を作成することができる。									
【授業の概要】									
五領域の意義と方向性（小学校との円滑な接続・架け橋プログラムも含む）について学び、特に幼稚園教育要領の教育の基本と五領域のねらいと内容及び内容の取り扱いに視点をおき、中でも平成30年度改訂の教育方針・前文の要点について理解深めて五領域（ねらいと内容）のつながりと（インクルーシブ保育のあり方）を確認し、乳児期の「ねらい及び内容」についてその発達の特徴を踏まえ3つの視点（身体的・社会的・精神的）から編成されていることを理解するとともに幼児期と児童期の指導方法（低学年の総合学習）について保育者（教員）として活用出来る使命と指導力（資質能力）の育成を目指す。									
自然環境（春の草花や虫と戯れる）活動や幼稚園教育要領の前文の趣旨に沿って「社会に開かれた教育課程」の実現の為に「エコ環境SDGs」のモデル地域での「主体・対話的学び・協動的な学び」が育った実践事例（認定こども園本城東幼稚園）を活用することによって深い学びが実現する過程を踏まえ五領域に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	「教育方法論」の意義（オリエンテーション） 教育方針・前文の要点				【事前】授業態度について自分なりの考えをまとめておくこと。				
					【事後】指定した自己評価（ふりかえり）へ用紙に自分の考えを述べ、用語の意味や解釈を加えた自己点検用紙を作成すること。				
第2回	教育方法の基本(保育の営みについて)				【事前】テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。				
					【事後】指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。				
第3回	教育方法の基本(保育の形態について)				【事前】テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。				
					【事後】指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。				
第4回	教育方法の基本①（非認知能力を育む環境による保育） 「教育的価値観のある人的環境について」				【事前】テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。				
					【事後】指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。				
第5回	教育方法の基本②（非認知能力を育む環境による保育） 「教育的価値観のある物的環境について」				【事前】テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。				
					【事後】指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。				
第6回	教育方法の基本③（コロナ禍を踏まえた環境による保育） 「非認知能力を育む教育的価値観のある自然・時間・空間について」				【事前】テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。				
					【事後】指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。				
第7回	幼児期にふさわしい生活の展開方法				【事前】テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。				
					【事後】指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。				

第8回	遊びを通しての指導(「非認知能力」を育むための遊びについて) 実践事例(ピーマンたくさんとれたよ!)を活用した指導計画(保育の手順)①	【事前】テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】指定した自己評価(ふりかえり)へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第9回	総合的指導について理解する 事例(ピーマンたくさんとれたよ)②	【事前】テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】指定した自己評価(ふりかえり)へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第10回	遊びを通しての総合指導 (ピーマンたくさんとれたよ)③	【事前】テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】指定した自己評価(ふりかえり)へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第11回	幼児期に育みたい「非認知能力」・「資質能力」について (幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿)④	【事前】テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】指定した自己評価(ふりかえり)へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第12回	指導計画・10の姿について①PDCA導入 アクティブラーニングを導入し双方の学びとする	【事前】テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】指定した自己評価(ふりかえり)へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第13回	指導計画・10の姿について②PDCA導入 アクティブラーニングを導入し双方の学びとする	【事前】テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】指定した自己評価(ふりかえり)へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第14回	実践発表(1) 保育の評価と省察 (2) 保育の改善(ふりかえり) PDCAを導入する	【事前】テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】指定した自己評価(ふりかえり)へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第15回	まとめ(講義内容)	【事前】第1～14回の内容についてノート(自己点検)を活用し、グループディスカッションなどを通して復習する。 【事後】自己点検・レポートなどのフィードバック及びノートを活用し、講義全体を復習する。
【学生に対する評価】 定期試験(50%) レポートの提出(30%) 授業への取組み(20%)		
【テキスト及び参考書】 幼稚園教育要領解説書(平成30年3月)・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説書(平成30年3月) 【参考書・参考資料等】 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館) 「幼保連携型認定子ども園 教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館) 「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)		
【学生へのメッセージ】 授業の準備としての予習もしくは課題プリント、及び復習やまとめに関するノート整備などの授業内容の理解に努めること。又、コロナ禍時代を踏まえ、必要に応じて授業方法を変更する。		
【備考】		
【担当教員の連絡先等】 学校専用E-mail: shin@tohaya.ac.jp		

授 業 科 目 名	幼児理解論	担 当 教 員 名	後藤 伸子	単 位 数	2	授 業 区 分	演 習	開 講 時 期	2 年 後 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>授業を進めるにあたっては、学生が積極的に参加するよう討論形式や保育カンファレンスなどのグループを中心とした授業形態を考えている。以下の5点を目標にして取り組む。</p> <p>①保育を行うには、まず一人一人の子ども理解に努めることが出発点であることを学習する。</p> <p>②子どもの思いや育ちを丁寧に捉え、その内実を理解し、援助のあり方を考えていくことを学習する。</p> <p>③子どもが見せる姿や行為、育ちを読み取る視点と保育者の関わりが関係していることを学習する。</p> <p>④子ども理解を深める観察や周囲との連携の取り組み方など、保育者の専門性の根幹について学習する。</p> <p>⑤幼児教育の現状と課題を認識し、保育者としての心構えに関する基礎力を育成する。</p>									
【授業の概要】									
<p>保育を志している学生には必修科目であるこの科目を通して、幼児理解の基本、保育者としての姿勢について学び、よりよい保育を創り出すための意識を高めることが出来るようにする。その中で、子ども一人一人を理解し評価することは、保育者自身を振り返り評価することにつながることを理解し、将来幼児教育に携わる者としての自覚をもたせたい。</p>									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 保育における子ども理解の意義			【事前】教材の準備、確認をする。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第2回	子どもに対する関わりと共感的理解			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第3回	子どもの生活や遊び			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第4回	保育における人的環境としての保育者と 子どもの発達			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第5回	子ども相互の関わりと関係づくり			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第6回	集団における経験と育ち			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第7回	発達における葛藤やつまづき			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第8回	保育の環境の理解と構成			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第9回	環境の変化や移行			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第10回	子ども理解のための観察・記録・省察・評価			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第11回	子ども理解のための職員間の対話			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第12回	子ども理解のための保護者との情報共有			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第13回	発達の課題に応じた援助と関わり			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第14回	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】配布資料、ノートを整理し授業内容の理解を深める。					
第15回	発達の連続性と就学への支援			【事前】教科書やICTを活用して指定した課題レポートを作成する。 【事後】試験に向けて全体の振り返りをする。					
【学生に対する評価】									
定期試験(60%)、課題レポート(20%)、受講態度(20%)等による総合評価									

【テキスト及び参考書】

参考図書

「幼児理解に基づいた評価」（平成31年3月 文部科学省）（チャイルド本社）

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」（令和3年2月 文部科学省）（チャイルド本社）

「指導と評価に生かす記録（平成25年7月 文部科学省）（チャイルド本社）

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）（フレーベル館）

【学生へのメッセージ】

2年生は実習学年といわれように、子どもと多く触れ合う機会があります。その中で、疑問に思ったこと、対応に困ったことなどを授業中に積極的に話題提供し、学びをより深められるように記録をしっかりとっておきましょう。また、授業を自分のものにするために、視点をもって子どもを見るようにし、子どもの内面理解に努めましょう。子どもを理解することは、保育者自身の関わりに目を向けることでもあります。保育は相互理解であり、保育者は子どもと共に育つ関係にあると思います。授業を通して「自分を知る」ことも大切です。

【備 考】

授業プリントは、丁寧にファイリングしましょう。定期的に提出していただき、評価させていただきます。

【担当教員の連絡先】

担当教員E-mail : gotou@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail :

授業科目名	教育相談論	担当教員名	木本 節子	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年後期
<p>【授業の到達目標及びテーマ】</p> <p>教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。</p> <p>幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基本的知識を含む）を身に付ける。</p>									
<p>【授業の概要】</p> <p>昨今、核家族化・少子化が進み子どもの育ちに必要なさまざまな環境が奪われている。特にコロナ禍の時代をむかえ親（保護者）にとって「子育て」のしにくい社会環境になっている。</p> <p>中でも親の育児不安が深刻化する一方で、発達に気がかりのある子どもが増加し、さまざまな問題を抱えている。そのような親（保護者）に対して心に寄り添える、より豊かな人間関係を深めていくために、「カウンセリングの基礎知識（カール・ロジャースの法則・インリアルアプローチ・インクルーシブの保育のあり方）」を学び、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」についてより深く理解し、その評価方法を活用した教育相談のあり方について学ぶ。（育ちと学びの架け橋プログラム）</p> <p>また、学生自身が教育・保育実習などで体験したことを活用し、主体的・対話的学びを実現するために「アクティブラーニング」を導入する。その学びの中から、カウンセリングマインドの重要性に気付く。</p>									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 教育相談（保育カウンセリング）の目的・意義			<p>【事前】 授業態度について自分なりの考えをまとめておくこと。</p> <p>【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へ用紙に自分の考えを述べ、用語の意味や解釈を加えた自己点検用紙を作成すること。</p>					
第2回	現代社会における子育て、子育てと保育の現状			<p>【事前】 テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。</p> <p>【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。</p>					
第3回	保育における今日的課題（保育の多様化と質の向上）			<p>【事前】 テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。</p> <p>【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。</p>					
第4回	保育カウンセリングの位置づけ （「カール・ロジャースの法則」を含む）			<p>【事前】 テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。</p> <p>【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。</p>					
第5回	保育カウンセリングの流れ			<p>【事前】 テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。</p> <p>【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。</p>					
第6回	カウンセリングの基礎①リレーション			<p>【事前】 テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。</p> <p>【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。</p>					
第7回	カウンセリングの基礎②問題の把握			<p>【事前】 テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。</p> <p>【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。</p>					

第8回	保育カウンセリングの傾聴（態度とポイント）	【事前】 テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第9回	カウンセリングの基礎③問題の解決	【事前】 テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第10回	親との育児相談・助言について(サイレントベビー) 保護者とのかかわり（育児相談・助言）	【事前】 テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第11回	幼稚園・保育園・子ども園の事例を活用した専門機関との連携について	【事前】 テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第12回	教育相談の実際① 小学校の関連について（子どもを小学校に送り出す前に）	【事前】 テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第13回	教育相談の実際② 「発達障がい」の対応について (インリアルアプローチのビデオを活用)	【事前】 テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第14回	教育相談の実際③ 「保育者のメンタルヘルス」(同僚の心の不調に気付く)	【事前】 テキスト・資料などの指定範囲を熟読し、指定した課題(用語の意味)を調べること。 【事後】 指定した自己評価（ふりかえり）へのフィードバックを活用し内容に関する旨をグループディスカッションや指定したメディアにて情報を収集する。
第15回	まとめ（講義内容の整理）	【事前】 第1～14回の内容についてノート(自己点検)を活用し、グループディスカッションなどを通して復習する。 【事後】 自己点検・レポートなどのフィードバック及びノートを活用し、講義全体を復習する。
【学生に対する評価】 定期試験（40%）、レポートの提出（40%）、授業への取り組み（20%）による総合評価		
【テキスト及び参考書】 やさしく学べる「保育カウンセリング」（大竹直子）金子書房 参考書・参考資料 「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)（フレーベル館） 「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)（フレーベル館）		
【学生へのメッセージ】 この授業では、グループ活動を通して、他の人へ配慮しながらコミュニケーションすることが多々あります。自分とは違う考え方やコミュニケーションのあり方に出会った時、それを自分の中にどのように取り込み、自分の人間としての視野を広げていくかが大切になります。他の人の良いところに気づく眼とそれを活かせる心を身につけられるようになりましょう。 ※コロナ禍時代を踏まえ、必要に応じて授業方法を変更する。		
【備考】		
【担当教員の連絡先等】 学校専用E-mail : shin@tohaya.ac.jp		

授業科目名	教育実習指導 I	担当教員名	加来 栄治	単位数	0.5	授業区分	実習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】 ①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ②教育実習 I に向けた事前の心構えや準備に関する基礎的知識を身に付ける。 ③教育実習を通して得られた知識及び経験を振り返り、今後身に付けることが必要な知識及び技能等を理解する。									
【授業の概要】 この授業は、幼稚園教諭二種免許状取得に向けた教育実習が有意義に行われるように、事前の心構えや指導計画の作成、事前・事後指導を行うものである。 教育実習 I では、子どもや保育者の観察に重きを置き、①子どもの発達を知る、②子どもの行動と保育者の援助の意図を探る、③保育の流れや段取りをつかみ、保育技術を高めることを重点目標とする。 幼児の実態に触れ、実習園の様々な幼児教育の取り組みを理解したうえで、自分で考え、行動し、自ら創る学びを大切にしてほしい。また、実習を経験しての振り返りから自己の課題を見出し、次回の教育実習 II へとつなげていくことが重要である。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	教育実習 I の意義と目的、内容理解			【事前】 テキスト6P～15Pを通読しておくこと 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第2回	附属幼稚園入園式実習			【事前】 身だしなみを整え持ち物、実習内容の確認 【事後】 実習記録と振り返りの記入					
第3回	附属幼稚園入園式実習の振り返り 子どもの発達の理解			【事前】 テキスト18P～28Pを通読しておくこと 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第4回	教育実習における事前指導①（書類準備等）			【事前】 教育実習の手引きを通読し、教育実習において自己の目的を考える 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第5回	教育実習における事前指導②（実習日誌の書き方）			【事前】 テキスト114P～130Pを通読しておくこと 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第6回	指導計画の作成の方法（ICT等を利用し調べる）			【事前】 幼稚園教育要領解説96P～120Pを通読しておくこと 【事後】 年齢別の指導案の作成					
第7回	子どもの行動と保育者の援助とその意図			【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第8回	模擬保育（グループでの研究）			【事前】 指導案確認と教材、シミュレーションの準備 【事後】 シミュレーションの振り返り、指導案の改善					
第9回	教育実習事前指導			【事前】 教育実習の手引きの通読、実習内容の確認 【事後】 日誌、実習内容の確認、持ち物等の準備					
第10回	教育実習事後指導			【事前】 日誌の内容、配布資料の記入、提出物の確認 【事後】 実習先への日誌の提出、報告書の記入					
第11回	実習体験の報告や実践発表（実習報告会）			【事前】 実習内容をまとめ、自己評価の記入 【事後】 報告会の記録、内容のまとめ、資料提出					
第12回	教育実習の自己評価と課題			【事前】 教職履修カルテの記入と自己課題の整理 【事後】 教育実習 II に向けて、指導計画の準備と課題の確認					
【学生に対する評価】 受講態度(30%)、書類作成・提出物の状況と内容(50%)、実習に対する取り組みや意欲(20%)を併せた総合評価									

【テキスト及び参考書】

「教育実習の手引き」（北九州保育福祉専門学校編）

「幼稚園教育指導資料第1集 幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」（チャイルド本社）

「幼稚園教育指導資料第5集 幼児理解に基づいた評価」（チャイルド本社）

「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」（チャイルド本社）

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

【学生へのメッセージ】

附属幼稚園の卒園式見学に続き、入園式実習を行います。幼稚園生活をスタートする子どもとそれを迎え入れる教諭や園の環境構成等の様子が分かる貴重な機会です。その場で感じたことなど体験を実習に活かしてほしいです。実習開始までの1ヵ月間を有意義な時間とできるよう準備を早めに行い、分からないことや不安なことは担当まで相談にきてください。

【備 考】**【担当教員の連絡先等】**

担当教員E-mail： kaku@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail：

授業科目名	教育実習指導Ⅱ	担当教員名	加来 栄治	単位数	0.5	授業区分	実習	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。									
②教育実習Ⅱに向けた事前の心構えや準備に関する基礎的知識を身に付ける。									
③教育実習を通して得られた知識及び経験を振り返り、教員免許状取得にまでにさらに身に付けることが必要な知識及び技能等を理解する。									
【授業の概要】									
学内で学んだ理論や技術を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を幼稚園の現場で養い、そして身に付けた知識をより確かなものにしていくことを目的としている。									
また新しい幼児教育を研究し、一人一人の子どもに寄り添い、日々の変化と成長を感じ取れる職業である幼稚園教諭のやりがいと責任、専門性を理解するとともに自己の課題を明確にしていくことが重要である。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	教育実習Ⅱのオリエンテーション (授業内容の概要・幼稚園教諭の職務と役割)				【事前】教育実習Ⅱにおける自己の目的を考えておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第2回	教育実習Ⅰの振り返りと課題の確認				【事前】教育実習Ⅰの振り返りと自己課題の確認 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第3回	教育実習の意義と目的				【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第4回	記録の書き方① (子どもの主体性の育ちと保育者の関わり)				【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第5回	記録の書き方② (子どもの社会性の育ちと保育者の関わり)				【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第6回	模擬保育①(教材研究、グループ研究)				【事前】年齢別の指導案の作成 【事後】指導案の教材研究と改善				
第7回	模擬保育②(グループ発表、振り返り)				【事前】指導案確認と教材、シミュレーション準備 【事後】シミュレーションの振り返り、指導案の改善				
第8回	教育実習事前指導				【事前】教育実習手引きの通読、実習内容の確認 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第9回	教育実習事後指導				【事前】日誌の内容、配布資料の記入、提出物の確認 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第10回	実習体験の報告や実践発表 (実習報告会)				【事前】実習内容をまとめ、自己評価の記入 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第11回	教育実習Ⅱの自己評価				【事前】教職履修カルテの記入と自己課題の明確化をしておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
第12回	教育実習の総まとめ				【事前】配布資料を通読しておくこと 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートの作成				
【学生に対する評価】									
受講態度(30%)、書類作成・提出物の状況と内容(50%)、実習に対する取り組みや意欲(20%)を併せた総合評価									

【テキスト及び参考書】

「教育実習の手引き」(北九州保育福祉専門学校編)

「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)

「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省) (フレーベル館)

「幼稚園教育指導資料第1集 幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」(チャイルド本社)

「幼稚園教育指導資料第5集 幼児理解に基づいた評価」(チャイルド本社)

「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」(チャイルド本社)

【学生へのメッセージ】

教育実習Ⅱは、実習の集大成として取り組んでください。幼稚園の行事の見学やお手伝い等、実習生として積極的に行動していくことが大切です。実習を重ねる中で出会った子ども達や先生方の姿から、自分がなりたい理想の保育者を目指して実習に臨んでほしいです。

【備 考】

※この授業は2年前期より(教育実習Ⅰが終わり次第)実施します。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail : kaku@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail :

授 業 科目名	教育実習 I	担 当 教員名	加来 栄治	単位数	2	授業 区分	実習	開講 時期	2年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>①幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。</p> <p>②保育に必要な基礎的技術(話法、保育形態、保育展開及び環境構成等)を実地に即して身に付ける。</p> <p>③幼稚園教諭の役割、及び職務内容を实地に即して理解する。</p> <p>④様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。</p>									
【授業の概要】									
<p>実習は基本的目標「コミュニケーション能力」「他者への配慮・おもいやり」「観察眼」の育成を目指して行う。</p> <p>実習は、見学・観察実習、参加実習、指導実習など様々な形式で行う。幼稚園での保育に積極的に参加し、幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能と役割や幼稚園教諭の職務内容を学んでいく。</p> <p>更にこの実習を通して学んだ自己の課題を明確化し、幼稚園教諭としての専門性を高める機会とする。</p>									
【授業計画】									
実習園における10日間の実習内容は以下の通りである									
第1週									
)	1. 幼稚園の生活と一日の流れを理解し、保育内容について学ぶ								
	2. 観察と記録、遊びや生活を通して幼児の発達や特性を理解する								
	3. 幼児に対する関わりや保育に必要な基礎的技術等を身に付ける								
第2週	4. 幼児の実態等を踏まえた指導計画を作成し、保育を実践する								
	5. 社会人としての基本的なマナーを学ぶ								
【学生に対する評価】									
実習中の意欲や態度(20%)、実習日誌等の提出物の状況と内容(30%)、実習園からの評価(50%)を併せた総合評価									
【テキスト及び参考書】									
「教育実習の手引き」(北九州保育福祉専門学校編)									
「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)									
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館)									
「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」(チャイルド本社) 「楽しい音楽表現」(圭文社)									
「こどものうた200」(チャレンジ本社)									
【学生へのメッセージ】									
<p>教育実習という貴重な体験を生かし、多くの子どもと積極的に触れ合い、子どもの興味や関心、発達を知り、子どもへの理解を深めてほしいです。また、幼稚園教諭の職務を理解し、社会人としての基本的なマナーや「報告」・「連絡」・「相談」(ほう・れん・そう)を厳守することを心掛けましょう。</p>									
【備 考】									
【担当教員の連絡先等】									
担当教員E-mail:kaku@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail:				

授 業 科 目 名	教育実習Ⅱ	担 当 教 員 名	加来 栄治	単 位 数	2	授 業 区 分	実 習	開 講 時 期	2 年 後 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>①個々の幼児の発達、内面の変化、個性の理解を深め、適切に幼児と関わるができる。</p> <p>②幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。</p> <p>③幼稚園教諭の役割及び職務内容を実地に即して理解し、他の教職員との連携を身に付ける。</p> <p>④保護者や地域の子育て支援、幼児期の教育のセンターとしての社会的役割を学ぶ。</p>									
【授業の概要】									
<p>基本的目標「コミュニケーション能力」「他者への配慮・おもいやり」「観察眼」の育成を目指す。又、幼稚園の通常の教育活動及びそれ以外の行事等の活動を通して、教育的愛情や教育に対する使命感や責任感を養うことをねらいとし、実習園の行事や実習生の状況に応じて、観察・参加実習、責任実習など様々な形で実習を行う。</p> <p>この実習を通して学んだ自己の課題を明確化し幼稚園教諭としての専門性を高める機会とする。</p>									
【授業計画】									
	実習園における10日間の実習内容は以下の通りである								
第1週	<p>1. 幼稚園教諭としての必要な知識、能力、技術を習得する</p> <p>2. 幼児の発達、内面の変化、個性についての理解を深める</p> <p>3. 教職員との連携、協力体制の重要性について理解する</p>								
第2週	<p>4. 観察と関与、記録、指導計画に基づく実践を通して保育技術の伸長を図る</p> <p>5. 地域の子育て支援、幼児期の教育センターとしての社会的役割を理解する</p>								
【学生に対する評価】									
実習中の意欲や態度(20%)、実習日誌等の提出物の状況と内容(30%)、実習園からの評価(50%)を併せた総合評価									
【テキスト及び参考書】									
<p>「教育実習の手引き」(北九州保育福祉専門学校編)</p> <p>「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省)(フレーベル館)</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)(フレーベル館)</p> <p>「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」(チャイルド本社) 「楽しい音楽表現」(圭文社)</p> <p>「こどものうた200」(チャイルド本社)</p>									
【学生へのメッセージ】									
<p>教育実習Ⅰと同じ実習園で行います。その為、子どもたちの成長に大いに喜びを感じる実習であり、行事等の関わりを通して子どもの発達や幼稚園教諭の職務をより理解することができます。臨機応変に対応する行動力や積極性も求められます。「自分が今できることは何か」を考えて、実習先の教諭と相談しながら積極的に行動していきましょう。</p>									
【備 考】									
【担当教員の連絡先等】									
担当教員E-mail:kaku@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail:				

授業科目名	教職実践演習（幼）	担当教員名	加来 栄治（他）	単位数	2	授業区分	演習	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①教育実習、保育実習等の現場体験の成果を振り返り、既習の授業や活動を通して教員としての資質が身に付いているか等、学生が自己の課題に気づき問題解決していく。									
②教員になる上で、不足している知識や技能等を補い知識・技術や教養の定着を図る。									
③学生一人一人の履修を把握し、将来幼児教育に携わる者としての自覚や実践的指導力を身に付ける。									
【授業の概要】									
授業を進めるに当たっては、一人一人の学生が積極的に学習内容に関われるよう、グループを中心に展開し、コミュニケーション能力や観察眼の育成に努める。大きくは以下の3点の内容をもとに取り組む。									
①乳幼児の理解を深めることを通して、学級経営力や人間関係能力の育成。									
②乳幼児の発達と保育内容との関連を学ぶことを通して、幼児期にふさわしい生活の具現化の考察。									
③具体的な事例をもとに、教員としての責務及び役割について考察。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション、既習の授業や教育実習Ⅰでの学びの成果と課題の把握（履修カルテを持参）			【事前】 教職履修カルテの記入をしておくこと 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第2回	教育実習Ⅱの振り返り（実習記録などを準備） 教育実習Ⅱを通しての自己課題の確認			【事前】 実習日誌、実習記録等の準備 【事後】 配布資料を振り返り、授業レポートの作成					
第3回	教育実習Ⅱを通して体験した事例についてのグループ討議（討議内容をまとめ、発表準備）			【事前】 自分の実習内容をまとめておくこと 【事後】 授業レポートの作成、発表準備					
第4回	実習を通して体験した事例についてのグループ発表			【事前】 発表内容をまとめておくこと 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第5回	教職の意義・役割・職務内容についての確認			【事前】 ITC等を使用し教職について事前に調べておくこと 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第6回	指導案の作成			【事前】 年齢別の指導案の作成 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第7回	指導案の仕上げ及びグループ内でのシミュレーション			【事前】 年齢別の指導案の作成 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第8回	模擬保育発表①			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第9回	模擬保育発表②			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第10回	模擬保育発表③			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第11回	模擬保育発表④			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第12回	模擬保育発表⑤			【事前】 模擬保育の教材の準備 【事後】 模擬保育を振り返り、指導案の改善					
第13回	苧田幼稚園における模擬保育発表			【事前】 実践発表の準備 【事後】 実践発表の振り返りと自己評価を記入					
第14回	苧田幼稚園にて設定保育1・2限			【事前】 実践発表の準備 【事後】 授業内容を振り返り、授業レポートの作成					
第15回	幼稚園の基本を踏まえた教育の大切さの確認・まとめ			【事前】 配布資料を通読しておくこと 【事後】 授業内容を振り返り、課題レポートの作成					

【学生に対する評価】

発表内容（40%）、提出物（40%）、受講態度（20%）などによる総合評価

【テキスト及び参考書】

「幼稚園教育指導資料第5集 幼児理解に基づいた評価」（チャイルド本社），適宜資料を配布

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「幼稚園教育要領解説」（平成30年3月 文部科学省）（フレーベル館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）

「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）

【学生へのメッセージ】

グループ活動や保育案づくり、設定保育などを通して、他の人の考え方に触れ、自分自身の課題を確認するとともに課題解決のために、積極的にコミュニケーションを図ったり、他の人の良いところを自分の中に取り込んだりするようにしましょう。

【備考】

教員の連携・協力体制

幼稚園や保育所の実習担当教員、教科担当とも連携し、演習の推進に当たる。また、附属幼稚園の先生方の協力を得て、より具体的な実践演習や保護者との対応なども取り入れる。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail：kaku@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail：

授 業 科 目 名	保育実習 I (施設)	担 当 教 員 名	高西 敏正	単 位 数	2	授 業 区 分	実 習	開 講 時 期	2 年 前 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子ども（利用者）との関わりを通して、子ども（利用者）への理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子ども（利用者）の保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。									
【授業の概要】									
<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉施設等の役割や機能を理解し子ども（利用者）の観察やかかわりを通じ、養護の必要な子どもや障害のある子ども（利用者）等の理解を深め、具体的な支援方法を体験し、習得することを目的とする。 ・この実習を通して学んだ課題を明確化し、次回の実習へ前向きに取り組めるようにする。また自己の適性を知り就職の選択に活かしていけるようつなげていく。 									
【授業計画】									
第 1 週	1	施設の役割と機能							
	(1)	施設における子ども（利用者）の生活と保育士の援助や関わり							
	(2)	施設の役割と機能							
	2	子ども（利用者）の理解							
第 2 週	(1)	子ども（利用者）の観察とその記録							
	(2)	個々の状態に応じた援助や関わり							
	3	施設における子ども（利用者）の生活と環境							
	(1)	計画に基づく活動や援助							
	(2)	子ども（利用者）の心身の状態に応じた生活と対応							
	(3)	子ども（利用者）の活動と環境							
	(4)	健康管理、安全対策の理解							
	4	計画と記録							
	(1)	支援計画の理解と活用							
	(2)	記録に基づく省察・自己評価							
5	専門職としての保育士の役割と倫理								
(1)	保育士の業務内容								
(2)	職員間の役割分担や連携								
(3)	保育士の役割と職業倫理								
【学生に対する評価】									
実習先が与えた評価（70%）、実習日誌（30%）									
【授業方法】									
居住型児童福祉施設等及び障害児・者通所施設等における実習									
【テキスト及び参考書】									
「保育実習（施設）の手引き」（北九州保育福祉専門学校編）									
参考図書：「社会福祉小六法」（ミネルヴァ書房）									
「社会福祉六法」（ミネルヴァ書房）									
「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）									
「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）									
幼稚園教育指導資料第5集（チャイルド本社）									
【学生へのメッセージ】									
施設実習は保育所や幼稚園と違い、寝食する生活の場に入ることになりますので、個人情報やプライバシーの保護には十分気をつけましょう。									
「子どもの権利条約」によく目を通して、実習に臨みましょう。									
【備 考】									
【担当教員の連絡先等】									
担当教員E-mail：takanishi@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail：				

授業科目名	保育実習指導 I (施設)	担当教員名	高西 敏正	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】 ①保育実習の意義・目的を理解する。 ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ③実習施設における子ども（利用者）の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。									
【授業の概要】 ・施設における支援の実際を紹介し、共感的態度の育成を行う。 ・保育実習の意義 ・実習内容と課題の明確化 ・実習に際しての留意事項 ・実習日誌の書き方 ・事後指導における実習の振り返りと課題の明確化									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	実習のねらいと基本的理解			【事前】 実習先の概要を調べる 【事後】 講義内容で不明な点は教科書や実習の手引きで確認する。					
第2回	施設の種類と概要調べ、実習計画表の作成①			【事前】 実習の手引きを読んでおく 【事後】 講義内容で不明な点は教科書や実習の手引きで確認する。					
第3回	実習計画表の作成②			【事前】 実習の手引きを読み、課題を考える。 【事後】 講義内容で不明な点は教科書や実習の手引きで確認する。					
第4回	自己紹介表、誓約書等の作成			【事前】 印鑑など必要品の準備 【事後】 講義内容で不明な点は教科書や実習の手引きで確認する。					
第5回	書類清書、日誌ファイリング			【事前】 印鑑など必要品の準備 【事後】 講義内容で不明な点は教科書や実習の手引きで確認する。					
第6回	実習オリエンテーションの準備と守秘義務について			【事前】 施設ファイルや守秘義務について調べる 【事後】 講義内容で不明な点は教科書や実習の手引きで確認する。					
第7回	オリエンテーションまとめ			【事前】 実習に向けて準備することを明確にする 【事後】 講義内容で不明な点は教科書や実習の手引きで確認する。					
第8回	利用者や子どもへの対応事例（ロールプレイ形式）			【事前】 障害や発達についての復習をする 【事後】 講義内容で不明な点は教科書や実習の手引きで確認する。					
第9回	基本的な生活支援技術について (車椅子の操作、更衣等)			【事前】 配布プリントを読む 【事後】 講義内容で不明な点は教科書や実習の手引きで確認する。					
第10回	疾病予防と安全管理、実習中のマナーと心構え			【事前】 子どもの保健の復習、実習の手引きを読む 【事後】 講義内容で不明な点は教科書や実習の手引きで確認する。					
第11回	日誌の書き方①			【事前】 実習の手引きを読む 【事後】 講義内容で不明な点は教科書や実習の手引きで確認する。					
第12回	日誌の書き方②			【事前】 実習の手引きを読む 【事後】 講義内容で不明な点は教科書や実習の手引きで確認する。					
第13回	実習の準備と注意事項、評価について			【事前】 実習の手引きを読む 【事後】 講義内容で不明な点は教科書や実習の手引きで確認する。					
第14回	実習事後指導			これまでに学んだことを整理する。					
第15回	実習報告会								
【学生に対する評価】 受講態度（30%）、実習に対する取り組みや意欲（40%）、書類作成、提出物（30%）などによる総合評価									

【テキスト及び参考書】

- ◎「保育実習（施設）の手引き」（北九州保育福祉専門学校編）
- ◎授業プリント・資料類配布
- 「実習の手引き」（北九州児童養護施設実習連絡会）
- 「社会福祉小六法」（ミネルヴァ書房）
- 「保育所保育指針解説」（平成30年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）
- 施設実習ガイド（萌文書林）

【学生へのメッセージ】

施設実習では自身の日常生活がそのまま実習に投影されますので、自分自身のマナーや生活を見直しましょう。実習では学んできたものを応用する力が試されます。他の科目の学習にも力を入れていきましょう。

【備 考】

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail：takanishi@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail：

授 業 科 目 名	保育実習Ⅱ	担 当 教 員 名	榎本 郁美 (他)	単 位 数	2	授 業 区 分	実 習	開 講 時 期	2 年 前 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 一人一人の子どもの観察や関わりの視点を明確にし、発達や個性を捉え保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習Ⅰ（保育所）の経験を踏まえ、子どもの保育および保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び、自己評価等について実践に取り組み、理解を深め指導技術を習得する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士として自己課題を明確化する。 									
【授業の概要】									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所保育士として必要な姿勢や態度及び指導の方法・技術等を習得するとともに、「コミュニケーション能力の育成」「他者への配慮・思いやり」「観察力の育成」を目指して行う。 ・ 「保育実習Ⅰ（保育所）」での保育所実習の経験をもとに、自ら実習先保育所を選択して実習することにより、保育所の目的と機能、課題等より深く理解する。また「養護と教育が一体的に行われる」という保育の原理・社会的役割を具体的実践から学び取る。 									
【授業計画】									
第 1 週	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所の役割や機能の具体的展開を学ぶ。○保育全般に参加し、保育技術を習得する。 2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を学ぶ。特に発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。 3. 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程を理解する。 4. 子どもの家庭とのコミュニケーションの方法や保護者支援及び地域の子育て家庭への支援の実際を学び理解する。 5. 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育を理解する。 6. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携の在り方を学ぶ。 7. 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者に対する支援の実際を理解する。 								
第 2 週	<ol style="list-style-type: none"> 8. 保育士の業務と職業倫理を理解する。多様な保育の展開と保育士の業務・職業倫理を理解する。 9. 保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。 <p>（実習期間）（実習園）別途記載する。</p>								
【学生に対する評価】									
実習園の評価をもとに事前指導・事後指導の取り組み状況を合わせた総合評価。									
【テキスト及び参考書】									
「実習日誌の書き方」（一藝社）「保育指導案大百科事典」（一藝社） 「全国保育士倫理綱領ガイドブック」（全国社会福祉協議会） 「保育所保育指針」「保育所保育指針解説書」「認定こども園教育・保育要領」「認定こども園教育・保育要領解説書」（フレーベル館）「保育実習（保育所）の手引き」（北九州保育福祉専門学校編）									
【学生へのメッセージ】									
保育実習Ⅱでは、保育所の役割や機能、保育の計画－実践－記録と省察について、実際に体験しながら理解を深めることが求められます。これまでの既習科目と保育実習Ⅰでの実習経験をふまえて、総合的に保育をとらえる意識を実習に臨みましょう。また、「入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援」や関係機関や地域社会との連携・協働については、特に積極的に実習園の先生方にお尋ねしないと理解や学びを深めることが困難です。自ら学ぼうとする意欲、指導を素直に受け止める態度は、実習生として大切な姿勢です。また、「保育者は、子どものモデルである」ことを日ごろから十分に意識し、物事の捉え方、言葉遣い、所作を意識しましょう。学生同士で成長し合える授業にしていきたいと思います。									
【備 考】									
※保育実習Ⅰの自己課題を踏まえ、Ⅱの実習に反映させる必要があります。実習の目的と内容は、連続性を持ちながら発展していくものとなっています。より充実した実習内容となるよう努力していきましょう。									
【担当教員の連絡先等】									
担当教員E-mail：enomoto@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail：				

授業科目名	保育実習指導Ⅱ	担当教員名	榎本 郁美	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①保育実習Ⅰ（保育所）の自己課題を踏まえ、子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。養護と教育が一体的に行われる保育の基本原理や社会的役割を具体的実践から学び取る。									
②保育の計画、実践観察、記録等について実際に行う中で、理解を深め指導技術を習得できるようにする。									
③保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。									
④一人一人が発表する場を設け、表現力や実践力が養えるようにする。									
⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。									
【授業の概要】									
・実習という具体的な実践の中で、子どもの観察やかかわりの視点を明確にし、保育の理解や保育所の役割機能についての理解が深められるようにする。									
・既習の教科や保育実習Ⅰ（保育所）の経験を踏まえ、子どもの保育や保護者支援について総合的に学ぶ。									
・保育の計画を立て、実際に設定保育を実践する。記録には、的確な記述が求められるが、その為の観察眼の育成やコミュニケーション能力の育成に努める授業の中で、自分とは違う他者への思いやり等の育成に努める。									
・具体的な実践と結び付ける中で、保育士の業務内容や、職業倫理について学びを深めるとともに保育士としての自己課題を明確に意識できるように努める。									
【授業計画】					（事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容））				
第1回	オリエンテーション（授業内容の概要等について） 保育実習Ⅰの振り返り			【事前】保育士会倫理綱領（P10～P34）を読んでおく。 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。					
第2回	保育実習Ⅰの振り返り及び実習報告会			【事前】保育実習Ⅰの振り返りと自己の課題の確認する。 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。					
第3回	課題作品を使つての演習			【事前】課題作品を使つての演習の練習 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。					
第4回	保育実習Ⅱの意義と目的			【事前】保育実習Ⅱも自己評価表を見直しておく。 【事後】配布資料を振り返り、授業レポートを作成する。					
第5回	実習日誌の書き方について①			【事前】「保育指導案大百科事典」第1・2章を読んでおく。 【事後】「保育指導案大百科事典」第1・2章を読み理解する。					
第6回	設定保育について			【事前】「保育所保育指針」第1章総則を読んでおく。 【事後】子どもの主体的活動を促す遊びについて整理する。					
第7回	子どもの主体性を育てる保育とは？			【事前】「保育所保育指針」第1章総則を読んでおく。 【事後】「保育所保育指針」の指定された箇所を読んでおく。					
第8回	子どもに応じた適切な関わり			【事前】授業の振り返り「保育所保育指針」第2章を読む。 【事後】授業の振り返りとまとめをする。					
第9回	実習のための書類作成			【事前】「実習の手引き」の紹介表、誓約書等の書き方を読んでおく 【事後】下書きの清書を仕上げしておくこと。					
第10回	シミュレーション（模擬保育）			【事前】設定準備及びシミュレーション練習をする。 【事後】指導案見直しをする。					
第11回	シミュレーション（模擬保育）			【事前】設定準備及びシミュレーション練習をする。 【事後】指導案見直しをする。					
第12回	シミュレーション（模擬保育）			【事前】設定準備及びシミュレーション練習をする。 【事後】指導案見直しをする。					
第13回	実習直前指導			【事前】「実習の手引き」の指定された箇所を読んでおく。 【事後】指導案見直しをする。					
第14回	事後指導①（課題の明確化）			【事前】実習施設及担当教員に提出する書類を整えておく。 【事後】お礼状の清書、封筒あて名書き投函準備をする。					
第15回	事後指導②（実習報告会）			【事前】報告会準備をする。 【事後】教育実習Ⅱに向けた自己課題の明確化					
【学生に対する評価】									
受講態度(30%)、書類作成・提出物の状況と内容(50%)、実習に対する取り組みや意欲(20%)を併せた総合評価									

【テキスト及び参考書】

「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（フレーベル館）
「保育所保育指針解説書」「幼稚園教育要領解説書」（フレーベル館）
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」（フレーベル館）
「実習日誌の書き方」「保育指導案大百科事典」（一藝社）
「新聞紙で遊ぼうⅡ」（かもがわ出版） 全国保育士会倫理綱領ガイドブック（全国社会福祉協議会）

【学生へのメッセージ】

受講、実習に対する意欲や積極性は、何より大事です。また、実習内容のⅠとⅡの違いをを明確に意識し、連続性を持たせながら実習内容が深まり、確かな保育力に繋がるよう努力してください。結果として、自分の保育者としての自信に繋がることを信じて頑張りましょう。

※事前学習や事後の振り返りを丁寧に行い、主体性をもって意欲的に取り組む姿勢が何より大事です。

【備 考】

保育実習Ⅰの実習日誌、実習報告書・自己評価を授業に使用します。いつでも使用できるよう準備をしておいて下さい。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail:enomoto@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:

授 業 科 目 名	保育実習Ⅲ	担 当 教 員 名	高西 敏正	単 位 数	2	授 業 区 分	実 習	開 講 時 期	2 年 前 期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>① 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。</p> <p>② 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。</p> <p>③ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践の中で結びつけて理解する。</p> <p>④ 実習における自己の課題を理解する。</p>									
【授業の概要】									
<ul style="list-style-type: none"> ・「保育実習Ⅰ（施設）」等での経験と学びを基軸として、児童福祉施設等の役割や機能について実践を通じて理解を深め、社会的養護問題や障害児者問題の課題をより詳しく学ぶ。 ・施設における家庭と地域の生活実態を踏まえながら、家族支援や地域での役割を学び、理解を深める。 ・施設における個別支援計画の作成と実践について学び、理解を深める。 ・事後指導の反省を通じて自己覚知や自己課題の明確化を図りながら更なる資質の向上をめざす。 									
【授業計画】									
第1週 ～ 第2週	1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能								
	2. 施設における支援の実際								
	(1) 受容し、共感する態度								
	(2) 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども（利用者）理解								
	(3) 個別支援計画の作成と実践								
	(4) 子ども（利用者）の家族への支援と対応								
	(5) 各施設における多様な専門職との連携・協働								
	(6) 地域社会との連携・協働								
	3. 保育士の多様な業務と職業倫理								
	4. 保育士としての自己課題の明確化								
【学生に対する評価】									
実習先が与えた評価（70%） 実習日誌等（30%）									
【テキスト及び参考書】									
「保育実習（施設）の手引き」（北九州保育福祉専門学校編）									
「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）									
「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）									
その他適宜プリント・資料類配布									
【学生へのメッセージ】									
健康管理を徹底するとともに日常生活上のマナーや家事スキルを身につけ、保育実習Ⅲを選択した意義を確認して実習に臨みましょう。実習後の課題は事後指導時に事例発表報告会の中で共有していきたいと思ひます。									
【備 考】									
【担当教員の連絡先等】									
担当教員E-mail：takanishi@tohaya.ac.jp					学校専用E-mail：				

授業科目名	保育実習指導Ⅲ	担当教員名	高西 敏正	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>① 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。</p> <p>② 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。</p> <p>③ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。</p> <p>④ 保育士の専門性と職業倫理について理解する。</p> <p>⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>									
【授業の概要】									
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習Ⅰ（施設）を履修した後、より専門的な実習として施設の利用者や子どもたちの生活を理解し、施設に勤務する保育士の職務内容、役割、各施設の社会的役割について深く学ぶ機会とする。 ・ 施設における子ども（利用者）の人権と最善の利益は何かを常に意識して実習することで、他者への配慮や子ども観や人間観の形成、自分自身の生き方を考えさせる。 ・ 実習の事後指導を通じて振り返りと自己評価を行い、将来の就職先の選択機会とする。 									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	保育実習指導Ⅲのねらいと基本的理解				【事前】 実習の手引きを読んでおく。				
					【事後】 授業内容を教科書や実習の手引きなどで振り返る。				
第2回	施設の種類と概要調べ、実習計画表の記入				【事前】 実習先の概要を調べ、課題を考える。				
					【事後】 授業内容を教科書や実習の手引きなどで振り返る。				
第3回	自己紹介表、誓約書、実習計画表等の作成				【事前】 印鑑など必要品の準備。				
					【事後】 授業内容を教科書や実習の手引きなどで振り返る。				
第4回	レクリエーションの実際(外部講師による特別演習)				【事前】 配布プリントを読む。関連する資料の情報収集。				
					【事後】 授業内容を教科書や実習の手引きなどで振り返る。				
第5回	レクリエーションの実際(外部講師による特別演習)				【事前】 配布プリントを読む。関連する資料の情報収集。				
					【事後】 授業内容を教科書や実習の手引きなどで振り返る。				
第6回	書類清書、日誌ファイリング				【事前】 印鑑など必要品の準備。				
					【事後】 授業内容を教科書や実習の手引きなどで振り返る。				
第7回	レクリエーション計画				【事前】 関連する資料の情報収集。				
					【事後】 授業内容を教科書や実習の手引きなどで振り返る。				
第8回	レクリエーション演習				【事前】 レクリエーションの準備をする。				
					【事後】 授業内容を教科書や実習の手引きなどで振り返る。				
第9回	支援計画と家族支援、地域との関わりの実際				【事前】 配布プリントを読む。関連する資料の情報収集。				
					【事後】 授業内容を教科書や実習の手引きなどで振り返る。				
第10回	実習日誌等の書き方				【事前】 実習の手引きを読む				
					【事後】 授業内容を教科書や実習の手引きなどで振り返る。				
第11回	実習オリエンテーションの準備と守秘義務について				【事前】 施設ファイルや守秘義務について調べる				
					【事後】 授業内容を教科書や実習の手引きなどで振り返る。				
第12回	利用者や子どもへの対応事例（ロールプレイ形式）				【事前】 障害や発達についての復習をする				
					【事後】 授業内容を教科書や実習の手引きなどで振り返る。				
第13回	実習直前指導 注意事項、評価について				【事前】 実習の手引きを読む。				
					【事後】 授業内容を教科書や実習の手引きなどで振り返る。				
第14回	実習事後指導				これまでの学んだことを整理する。				
第15回	実習報告会								

【学生に対する評価】

受講態度（20%）、実習に対する取り組みや意欲・書類作成・提出課題（80%）

【テキスト及び参考書】

- ◎「保育実習（施設）の手引き」（北九州保育福祉専門学校編）
- ◎授業プリント・資料類配布
- 「実習の手引き」（北九州児童養護施設実習連絡会）
- 「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）（フレーベル館）
- 「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）（フレーベル館）

【学生へのメッセージ】

日常生活がそのまま実習に投影されますので、自分自身のマナーや生活態度を再度見直し、実習に対する不安がなくなるように努力しましょう。

【備考】**【担当教員の連絡先等】**

担当教員E-mail：takanishi@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail：

授業科目名	保育の心理学	担当教員名	米光 真由美	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】 ①発達理論などの心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する ②子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ③乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基本的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。 ④学生同士の対話、クラス全体での対話を通して、自分の意見を伝え、他者の意見を聞く機会を設ける。									
【授業の概要】 乳幼児期を中心に子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得する。乳幼児期は心身の変化も激しく人生の基礎をつくる時期でもある。情緒・運動機能・知覚・認知・ことばなど、乳幼児期の発達を段階別・側面別に見ていく。実習などで子どもを観察する力につながるように、観察の記録の方法も行う。事例を含む実践的な内容について能動的に学ぶと同時に、講義中に学生同士で意見を交換する機会を設ける。授業計画は進行状況によって変更することがある。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション				【事前】 シラバスを読んでおくこと 【事後】 授業の内容について理解を深める				
第2回	心理学とは				【事前】 配布資料を読む 【事後】 授業の内容について理解を深める				
第3回	発達の定義				【事前】 テーマの予習 【事後】 配布資料を読んで、発表のための資料準備				
第4回	子どもの発達と環境				【事前】 テーマの予習 【事後】 配布資料を読む。				
第5回	子どもの発達理解 (グループ討議)				【事前】 発表(口頭、プレゼンテーション)の準備 【事後】 授業の内容について理解を深める				
第6回	発達と障がい児の理解 No. 1				【事前】 テーマの予習 【事後】 授業の内容について理解を深める				
第7回	発達と障がい児の理解 No. 2				【事前】 テーマの予習 【事後】 授業の内容について理解を深める				
第8回	発達と障がい児の理解 No. 3				【事前】 配布資料を読む 【事後】 テキスト(配布資料等)を読み、予習すること				
第9回	ライフサイクルにおける心の危機 (グループ討議)				【事前】 配布資料を読む 【事後】 授業の内容について理解を深める				
第10回	胎児期から乳幼児期までの発達				【事前】 テキスト(配布資料等)を読み、予習すること 【事後】 授業の内容について理解を深める				
第11回	幼児期の発達				【事前】 テキスト(配布資料等)を読み、予習すること 【事後】 授業の内容について理解を深める				
第12回	学童期の発達				【事前】 テキスト(配布資料等)を読み、予習すること 【事後】 授業の内容について理解を深める				
第13回	青年期の発達				【事前】 テキスト(配布資料等)を読み、予習すること 【事後】 授業の内容について理解を深める				
第14回	心理支援 (グループ討議)				【事前】 発表(口頭、プレゼンテーション)の準備 【事後】 授業の内容についてレポートでまとめる				
第15回	関係諸機関との連携、まとめ				【事前】 配布資料を読む 【事後】 授業の内容について理解を深める				
【学生に対する評価】 提出物や受講態度(20%)、定期試験(80%)を総合評価									

【テキスト及び参考書】

テキスト 教科書は指定せず、配布プリントを中心に授業をします。プリントを各自で整理・保管すること。

参考書 「子どもへのまなざし」佐々木正美（福音館）

「やさしい心理学」匠英一、山本峰規子（成美堂出版）

「発達心理学」林洋一（ナツメ社）

「心理学」渋谷昌三（西東社）

「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)

【学生へのメッセージ】

保育を学ぶ者が子どもの発達を理解することが必要なのかをグループ討論を入れながら、共に考えていきます。

【備考】

復習を基本とし、ノートを見返し学んだ内容を振り返ってください。

【担当教員の連絡先等】

学校専用E-mail : shin@tohaya.ac.jp

授業科目名	子どもの理解と援助	担当教員名	村上 ゆき	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】 ①保育実践において、一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する ②子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する視点を学ぶ ③子どもを理解するための具体的な方法を理解する ④子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する									
【授業の概要】 子どもの理解とそれに基づく援助について、より実践的な力が身につくことを目指す。そのために、観察などを通じて子どもひとりひとりの発達や内面を把握することの意義を理解し、理解するための方法を学ぶ。また、子どもを理解する視点も学ぶ。 事例等を用いロールプレイやグループワークに取り組みながら、互いの意見を学び合う時間を設けていく。 授業計画は進行状況によって変更することもある。									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第1回	保育におけるこども理解の意義				【事前】	シラバスを読んでもらうこと			
					【事後】	授業の内容について理解を深めること			
第2回	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり				【事前】	テーマの予習をする			
					【事後】	授業の内容について理解を深めること			
第3回	子どもを理解するために 観察				【事前】	テーマの予習をする			
					【事後】	配布したスライド資料をまとめる			
第4回	子どもを理解するために 記録				【事前】	テーマの予習をする			
					【事後】	授業の内容について理解を深めること			
第5回	子どもを理解するために 省察・評価				【事前】	テーマの予習をする			
					【事後】	授業の内容について理解を深めること			
第6回	子どもを理解するために職員間の対話・保護者との情報の共有				【事前】	テキストを読み、予習すること			
					【事後】	提示した課題をまとめる(事例検討)			
第7回	子どもの生活や学び				【事前】	テキストを読み、予習すること			
					【事後】	授業の内容について理解を深めること			
第8回	遊びから子どもが学ぶことを考える				【事前】	テキストを読み、予習すること			
					【事後】	授業の内容について理解を深めること			
第9回	集団における経験と育ち				【事前】	テキストを読み、予習すること			
					【事後】	授業の内容について理解を深めること			
第10回	子どもの相互の関わりと関係づくり				【事前】	テキストを読み、予習すること			
					【事後】	授業の内容について理解を深めること			
第11回	子どもの動機付け				【事前】	テキストを読み、予習すること			
					【事後】	授業の内容について理解を深めること			
第12回	発達の課題に応じた援助と関わり				【事前】	配付資料を読み、予習すること			
					【事後】	授業の内容について理解を深めること			
第13回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助				【事前】	テキストを読み、予習すること			
					【事後】	授業の内容について理解を深めること			
第14回	発達の連続性と就学への支援				【事前】	テキストを読み、予習すること			
					【事後】	授業の内容について理解を深めること			
第15回	まとめ				【事前】	テーマの予習をする			
					【事後】	保育者として子どもの理解と援助のまとめ			
【学生に対する評価】 提出物や受講態度（20%）、定期試験（80%）を総合評価									

【テキスト及び参考書】

テキスト 「子どもとかかわる人のための心理学」 沼山 博、三浦 主博 編著 (萌文書林)

参考書 「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省)(フレーベル館)

「子どもへのまなざし」 佐々木正美 (福音館)

【学生へのメッセージ】

教員の話聞くだけでなく、学生自身が考え、他の学生の色々な考えに触れ、様々な考え方・捉え方に触れていきましょう。

【備 考】

復習を基本とし、ノートを見返し学んだ内容を振り返ってください。

【担当教員の連絡先等】

学校専用E-mail : shin@tohaya.ac.jp

授業科目名	子どもの健康と安全	担当教員名	高西 敏正	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
1. 保育における衛生管理、事故防止、安全対策について理解する 2. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解する 3. 保育における感染症対策について理解し適切に対応できる 4. 子どもの発達や状態に即した適切な保健対応について理解する 5. 子どもの健康管理に関わる組織的な取り組みや保健活動の計画、評価について理解する									
【授業の概要】									
小児に対する基本的な養護技術を学び、健康状態の把握および異常時の対応、事故予防について適切に対処するための技術等について演習する。また子どもの安全管理のための保健計画について学ぶ。加えて地域における子育て支援の取り組みについて理解を深める									
【授業計画】 <演>：演習					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション				【事前】 シラバスを読んで内容を理解しておく 【事後】 本時間の復習に取り組む。				
第2回	子どもの健康と安全				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第3回	子どもの疾病と健康 (1) 疾病予防				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第4回	子どもの疾病と健康 (2) 感染症予防				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第5回	子どもの疾病と健康 (3) 熱中症予防				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第6回	保育における健康および安全管理				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第7回	保育における保険的対応				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第8回	子どもの心身の健康状態と把握				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第9回	子どものアンガーマネジメント				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第10回	子どものストレスマネジメント				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第11回	子どものマインドフルネス				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第12回	子どものレジリエンス				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第13回	子どものソーシャルスキル				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第14回	安全管理と安全教育				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、学習の整理をする。				
第15回	まとめ・振り返り				【事前】 指示されている予習に取り組む。 【事後】 講義内容を復習して、健康と安全について整理をする。				
【学生に対する評価】									
授業への取り組み・態度 (70%) レポート・発表 (30%) 等による総合評価									

【テキスト及び参考書】

◎授業プリント配布

○「演習 子どもの保健Ⅱ」(みらい)

○「子どもの保健テキスト(診断と治療社)

【学生へのメッセージ】

授業や演習での態度、ディスカッション、質問に対する回答などの対応は評価に反映します。

授業で配布したプリントは確実にファイリングしてください。

【備考】

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail:takanishi@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:

授業科目名	子育て支援	担当教員名	爪田 寿子	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】 ①子育て家庭を取り巻く現状を把握し、子育て支援の意義と機能について理解する。 ②子育て支援体制や活動を理解する。 ③子育て支援の実際について学び、支援する者の資質や支援内容・方法を考えることができる。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と保育所や地域との連携について理解する。									
【授業の概要】 今日、少子化の進行に伴い、育児不安や親の育児負担が問題となっている。そのため、保育所における子育て支援が重要な役割を果たしているといえる。本演習では子育て家庭の現状把握と現在の支援策について実例を中心に学ぶ。DVD視聴後のグループ討議や事例研究などを通して積極的に子育て支援の在り方を学び理解を深めるようにする。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	授業ガイダンス	子育て支援とは				【事前】	シラバスに目を通しておく		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第2回		子育て支援の意義と役割				【事前】	保育士倫理綱領を読む		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第3回		子育て支援の必要性				【事前】	教科書該当箇所を読む		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第4回		保育士が行う子育て支援の原則				【事前】	バイステックの7原則を調べる		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第5回		子育て家庭を取り巻く社会的状況				【事前】	教科書該当箇所を読む		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第6回		保育所入所児童の家庭への子育て支援				【事前】	教科書該当箇所を読む		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第7回		保育所の特性を活かした子育て支援				【事前】	教科書該当箇所を読み面接技法を確認する		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第8回		子育て支援の技術と留意点				【事前】	教科書該当箇所を読む		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第9回		多様な子育て家庭の支援と関連機関との連携				【事前】	社会資源について調べる		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第10回		地域社会の変容と子育て家庭				【事前】	教科書該当箇所を読み配布資料を確認する		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第11回		地域の子育て家庭への支援				【事前】	教科書該当箇所を読み配布資料を確認する		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第12回		地域における子育て支援の状況				【事前】	教科書該当箇所を読み配布資料を確認する		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第13回		要保護児童及びその家庭に対する支援				【事前】	教科書該当箇所を読み配布資料を確認する		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第14回		保育所における子育て支援の事例①(グループ討議)				【事前】	配布事例を読む		
						【事後】	該当箇所を見直す		
第15回		保育所における子育て支援の事例②(グループ発表)				【事前】	配布事例を読む		
						【事後】	該当箇所を見直す		
【学生に対する評価】 レポートもしくは小テスト(20%)、定期試験(60%)、受講態度(20%)を総合評価する									

【テキスト及び参考書】

「子育て支援 より豊かに育つ支援をめざして」 大方美香・齊藤 崇 編著 (光生館)

「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省) (フレーベル館)

【学生へのメッセージ】

現代社会の子育てや家族をめぐる問題について興味をもちニュースなどを常に見て把握するよう努めましょう。

【備 考】

【担当教員の連絡先等】

学校専用E-mail : shin@tohaya.ac.jp

授業科目名	子ども家庭支援論	担当教員名	河合 倫子	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。									
②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。									
③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。									
④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。									
【授業の概要】									
<ul style="list-style-type: none"> 子ども家庭支援の意義と役割また、保育士による子ども家庭支援の在り方を理解できるようにする。 子どもを中心に据えた子育て支援のイメージができるように教科書を中心としながら資料やDVDを利用し進めていく。 観察のポイントを押さえた上で、子育て支援施設を見学し、振り返りのまとめやグループワークの中で施設の役割を明確に認識する。また、虐待については、DVDや演習を通し、機関との連携の実際を理解できるようにする。 コミュニケーション能力の育成や他者への配慮・思いやりの育成を図る。また、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携の実際を、演習を通し理解させ、子ども家庭支援の現状と課題を理解できるようにする。 									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第1回	オリエンテーション 家庭とは何か？ 家庭の意義とその機能				【事前】 ICT使用し、現代の家族について調べる。				
					【事後】 授業の振り返りと、教科書のはしがきを熟読する。				
第2回	1. 子ども家庭支援の意義と役割 (1) 子ども家庭支援の意義と必要性				【事前】 第2章支援を必要とする家族・家庭の背景と子育て施策を読む。				
					【事後】 授業の振り返りと、教科書のはしがきを熟読する。				
第3回	(2) 子ども家庭支援の目的と機能				【事前】 第12章①本書が依拠する子育て・子育て観を読んで理解する。				
					【事後】 授業の振り返りと子育て・子育て支援の当面の課題を読んでおく。				
第4回	第2部 支援を必要とする子どもと家族・家庭 (1) 家庭での育児を支える・保育所における子育て支援の実際				【事前】 第5章・第6章を読む。				
					【事後】 授業の振り返り				
第5回	(2) 子どもの育ちの喜びの共有				【事前】 第3章を読んで理解しておく。				
					【事後】 権利主体としての子どもをどのように考えるかを書く。				
第6回	(1) 障がいがあるということをどのようにとらえるか (2) 障がいがある子どもとの生活				【事前】 第7章 障害のある子どもについて読んでおく。				
					【事後】 障害のある子どもを持つ保護者について考えをまとめる。				
第7回	1. 子どもの貧困 (1) 貧困ライン (3) 子どもの貧困の具体像 2. ひとり親家庭への支援				【事前】 第8章 子どもの貧困とその家族・家庭への支援を読んでおく。				
					【事後】 振り返り				
第8回	・虐待の種類・虐待を引き起こす要因(プリント配布) ・虐待への対応(演習)・関係機関との連携の実際				【事前】 ICT使用し、虐待の実態や関係機関を調べる。				
					【事後】 演習を振り返り関係機関との連携について押さえる。				
第9回	養育困難家庭への支援の実際 専門機関の連携				【事前】 第9章 養育困難家庭への支援の実際を読む。				
					【事後】 授業の振り返り				
第10回	子育て家庭に対する支援の体制 校外学習～子育て支援施設見学 (子育て家庭の福祉を図るための社会資源)				【事前】 配布プリントにて、施設見学の見る視点をまとめておく。				
					【事後】 キャッチコピーを考え作成し、施設の内容等まとめる。				
第11回	子育て支援施設見学の振り返り グループワークを通し、他者理解やコミュニケーション能力を養う。 (専門性に繋がる)				【事前】 効果的プレゼン方法をグループで考え発表内容等作成する。				
					【事後】 グループ成員のよさを確認し、他のグループの評価を行う。				
第12回	子育て支援施設振り返り発表 子育て支援施策・次世代育成施設の推進				【事前】 伝わりやすい発表となるよう話し合い、練習しておく。				
					【事後】 発表を振り返り、保育者としてどのように生かすかを考える。				
第13回	保育所における保護者に対する支援の基本 入所する保護者に対する支援(資料配布) 地域の子育て家庭への支援(資料配布)				【事前】 保育所保育指針 第4章子育て支援を読んでおく。				
					【事後】 授業振り返り及び幼保連携認定こども園教育・保育要領を読む。				
第14回	チャイルド・マルトリートメント(資料配布) 要保護児童等及びその家庭に対する支援(ICT活用)				【事前】 事前配布の資料に目を通す。				
					【事後】 授業振り返り大事な箇所をまとめる。				
第15回	子ども家庭支援に関する現状と課題 まとめ				【事前】 第12章をまとめる				
					【事後】 授業の振り返り 押さえるべき内容を書きだす。				

【学生に対する評価】

定期試験(70%) レポート提出(20%)、グループワーク及び自己評価内容、積極性(10%)などによる総合評価

【テキスト及び参考書】

「子ども家庭支援論 阿部 和子」(萌文書林)

幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月 告示 内閣府) (フレール館)

「全国保育士会倫理要綱ガイドブック」(全国社会福祉協議会)

「保育所保育指針」(平成29年3月告示 厚生労働省) (フレール館)

「幼稚園教育要領」(平成29年3月告示 文部科学省) (フレール館)

【学生へのメッセージ】

子どもを取り巻く社会は、年々変化しています。そうした変化をニュースや、新聞で把握し、家庭支援の実際に結び付けて考えて行くことが大切です。様々な社会事象に興味や関心をもてるようにしましょう。

子どもの最善の利益のために何ができるのかを考え、地域の資源や社会資源等についても情報を取り入れる努力をしましょう。

【備考】

※予習として、次回のテーマに沿った自主的学び(報道・本・教科書・参考書等)をし、授業後は、必ず復習すること。世の中の動きや、世界の中の日本の在り方等様々な事柄に関心を持つ姿勢が大事。

【担当教員の連絡先等】

学校専用E-mail: shin@tohaya.ac.jp

授 業 科目名	社会的養護Ⅱ	担 当 教員名	爪田 瑠璃	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	2年 後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>① 子ども理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。</p> <p>② 社会的養護の最新の知識や情報を理解する。</p> <p>③ 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について学ぶ。</p> <p>④ 保育実習（施設）Ⅰ・Ⅲの理論と実際を学ぶ。</p>									
【授業の概要】									
<p>「社会的養護Ⅰ」においてすでに学んだ基礎知識を発展させ、児童福祉施設等を利用している子どもの立場から、具体的な子どもの生活や援助の方法について理解する。また子どもの心身の成長と発達を保障するために、正しい子どもの理解や専門的養護の方法や技術を習得する。</p> <p>なお、この授業は演習方式で展開するため、基本的目標である「コミュニケーション能力の育成」「他者への配慮・おもいやり」「観察力の育成」を目指し適時発表・報告や文書による連絡方法等の手法も取り入れる。</p>									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 社会的養護とは				【事前】	テキスト第1章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第2回	子どもの心理の理解と問題 心の現れ方と気づき				【事前】	テキスト第2章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第3回	社会的養護の理念 児童養護の基本的な考え方と成長・発達の保障				【事前】	テキスト第3章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第4回	社会的養護の内容 心理的援助と専門的援助・支援				【事前】	テキスト第4章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第5回	具体的な社会的養護の内容① 乳児院				【事前】	テキスト第5章1節を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第6回	具体的な社会的養護の内容② 児童養護施設				【事前】	テキスト第5章3節を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第7回	具体的な社会的養護の内容③ 福祉型障害児入所施設				【事前】	テキスト第5章4節を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
第8回	児童福祉施設の援助者 種類と役割				【事前】	テキスト第6章を読む			
					【事後】	「授業のポイント」記入、提出			
【学生に対する評価】									
授業への貢献度や参加意欲(10%)、レポート・提出物(10%)、定期試験結果(80%)等による総合的評価									
【テキスト及び参考書】									
『社会的養護内容』（北大路書房）									
『実習の手引き』（北九州児童養護施設実習連絡会）									
『保育実習（施設）の手引き』（北九州保育福祉専門学校編）									
適宜プリント・資料類配布									
【学生へのメッセージ】									
児童福祉に関する専門職としての保育士がどのように子育てを支えているのかについて学び、学生諸君の将来に少しでも役立てていただければと願っています。またこの授業は演習形式で行われ、「保育実習Ⅰ・Ⅲ（施設）」の関連科目として位置づけますので、主体的に授業に参加されることを望みます。									
【備 考】									
【担当教員の連絡先等】									
学校専用E-mail: shin@tohaya.ac.jp									

授業科目名	障害児保育Ⅱ	担当教員名	矢野 洋子	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】 ①障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ②個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 ③障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 ④障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 ⑤障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。									
【授業の概要】 支援計画の作成や職員・関係機関との連携等、障害児保育の実際を理解する。また、さまざまな支援制度について知り、ライフステージに応じた支援等、障害を持つ子どもをめぐる縦と横のつながりがとらえられるようにしていく。									
【授業計画】					【事前・事後学習（学習課題等の具体的な内容）】				
第1回	生活課題を抱える家庭の子どもの理解			【事前】	シラバスに目を通しておくこと。				
				【事後】	授業内容を教科書で振り返る。				
第2回	生活課題を抱える家庭の子どもの支援			【事前】	教科書を読み、関連する資料の情報収集。				
				【事後】	授業内容を教科書で振り返る。				
第3回	指導計画および個別の支援計画の作成 職員間の連携・協働			【事前】	教科書を読み、関連する資料の情報収集。				
				【事後】	授業内容を教科書で振り返る。				
第4回	障害児支援の制度の理解と 地域における自治体や関係機関の連携・協働			【事前】	教科書を読み、関連する資料の情報収集。				
				【事後】	授業内容を教科書で振り返る。				
第5回	小学校等との連携、就学に向けて			【事前】	教科書を読み、関連する資料の情報収集。				
				【事後】	授業内容を教科書で振り返る。				
第6回	障害児保育の現状と課題 事例			【事前】	教科書を読み、関連する資料の情報収集。				
				【事後】	授業内容を教科書で振り返る。				
第7回	障害児保育の現状と課題 事例			【事前】	教科書を読み、関連する資料の情報収集。				
				【事後】	授業内容を教科書で振り返る。				
第8回	振り返り・まとめ（課題学習発表）			【事前】	授業のプリントの整理をする。				
				【事後】	授業全体を振り返り、まとめる。				
【学生に対する評価】 授業態度、提出物（20%）、定期試験（80%）などによる総合評価									
【テキスト及び参考書】 「障害児保育演習ブック」（ミネルヴァ書房）									
【学生へのメッセージ】 障害児保育を小・中・高と続く特別支援教育の連続の中でとらえることで、子どもの自立や環境適応の基盤を育てることができる保育者を目指します。 個別のニーズに対し適切な支援ができるように学びを深めていきましょう。									
【備考】									
【担当教員の連絡先等】 担当教員E-mail：yano@tohaya.ac.jp									
学校専用E-mail：									

授 業 科目名	音楽Ⅲ(器楽)	担 当 教員名	石井 貴子	単位数	1	授業 区分	演習	開講 時期	2年 前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
(1) 子どもの音楽表現活動に必要な演奏技能および表現技術を習得している。									
(2) 子どもの発達に即した教材の活用法を考察し、授業および実習で実践できる。									
【授業の概要】									
音楽Ⅰ、Ⅱで習得したピアノ基礎技能を踏まえて、演奏技術の向上および表現力の習得を図る。指導内容は、子どもの歌弾き歌いとし、保育での表現活動で必要となるピアノ技術、歌唱力、表現力、言葉かけなどについて、グループ別個人指導を行う。さらに、実習の学びから、子どもの発達に即した音楽の指導方法や弾き歌いの曲の教材活用方法についても学習する。1年次に引き続き、担当教員によるインターネット上の模範演奏を独習の補助教材として活用する。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 授業形態の確認および1年次の振り返り				【事前】 ステップ1の課題曲1曲目、2曲目を練習する。 【事後】 授業内容を復習する。				
第2回	読譜力についての確認				【事前】 ステップ1の3曲目、4曲目練習する。 【事後】 授業内容を復習および合格曲を練習する。				
第3回	拍子とリズムについて				【事前】 ステップ1の5曲目、6曲目練習する。 【事後】 授業内容を復習および合格曲を練習する。				
第4回	弾き歌いの「歌」の役割について				【事前】 ステップ1の7曲目を練習する。 【事後】 ステップ1前半のまとめを練習する。				
第5回	教育実習Ⅰに向けて季節の歌の練習				【事前】 ステップ2の課題曲1曲目、2曲目を練習する。 【事後】 授業内容を復習する。				
第6回	教育実習Ⅰに向けて生活の歌の練習				【事前】 ステップ2の3曲目を練習する。 【事後】 授業内容を復習および合格曲を練習する。				
第7回	ピアノ合格カード提出と課題の振り返り				【事前】 レベル確認で演奏する段階を選択する。 【事後】 担当講師による指定レベルと課題曲を練習する。				
第8回	担当講師によるレベル確認				【事前】 ピアノおよび歌詞の最終確認をする。 【事後】 レベル確認の演奏について振り返りを行う。				
第9回	第8曲目からの課題				【事前】 ステップ1の課題曲8曲目、9目を練習する。 【事後】 授業内容を復習する。				
第10回	教育実習Ⅰの反省および保育実習Ⅱへの目標設定				【事前】 ステップ1の10曲目、11曲目練習する。 【事後】 授業内容を復習および合格曲を練習する。				
第11回	子どもの指導に適切なテンポ、言葉かけ、表情について				【事前】 ステップ1の12曲目、13曲目練習する。 【事後】 授業内容を復習および合格曲を練習する。				
第12回	歌詞の理解と歌との関連				【事前】 ステップ1の14曲目を練習する。 【事後】 ステップ1後半のまとめを練習する。				
第13回	子どもの歌におけるコードネームについて				【事前】 ステップ2の課題曲8曲目、9曲目を練習する。 【事後】 授業内容を復習する。				
第14回	ピアノ合格カード提出と課題の振り返り				【事前】 ステップ2の10曲目を練習する。 【事後】 授業内容を復習および合格曲を練習する。				
第15回	担当講師によるレベル確認 前期のまとめ				【事前】 実技試験で演奏する段階を選択する。 【事後】 担当講師による指定レベルと課題曲を練習する。				
【学生に対する評価:各評価項目については評価割合(%)を含む】									
定期試験(80%) レポート提出および受講態度(復習と次回授業への予習を含む)(20%)による総合評価									

【テキスト及び参考書】

配布楽譜、「こどものうた200」「続こどものうた200」（チャイルド本社）

「保育士・幼稚園教諭小学校教諭養成のためのピアノテキスト」全国大学音楽教育学会九州地区学会（カワイ出版）

【学生へのメッセージ】

1年次で習得したピアノの基礎技術を生かして、季節や行事の歌などの弾き歌いに取り組みましょう。個人のレベルに合った伴奏法を学び、歌のレパートリーを少しずつ増やしていくことで、実習での音楽表現活動が充実します。毎時間予習をして授業に臨み、授業時間を有効に活用して次回の授業までに復習をする積み重ねを大切にしてください。

【備 考】

配布プリント、楽譜は、1年次に使用したピアノノートに貼って使用する。

【担当教員の連絡先等】

担当教員E-mail:ishii@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:

授業科目名	音楽Ⅲ（声楽）	担当教員名	大屋 省子	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>(1) 1年次の基礎をふまえて歌による表現力（歌唱力）を高める。</p> <p>(2) 個々の音楽的自立を目指す。</p> <p>(3) 保育現場に対応できるだけの歌唱力を身につけ、心豊かな情操を養う。</p>									
【授業の概要】									
音楽Ⅲ（声楽）では、わらべうたの実践（しぐさ遊び・役交代・交互唱・門くぐり・隊伍遊び他）を体得する。並行して個々の歌唱力の向上と、より美しいハーモニーを目指す。									
【授業計画】									
第1回	オリエンテーション 1年次の振り返り、2年次課題提示					わらべうた伝承遊び			
第2回	発声法、呼吸法、ストレッチの確認					鬼きめ			
第3回	ハ長調、ヘ長調、ト長調の音階練習					ドノコガヨイコ 他			
第4回	写譜練習					役交代			
第5回	音符、休符、拍子記号、調合の書き方練習					たけのこめだした 他			
第6回	生活の歌 音名唱					隊列			
第7回	行事の歌 音名唱					すずめすずめ 他			
第8回	季節の歌 音名唱					門くぐり			
第9回	生活の歌 歌唱発音の確認と音楽表現の練習					どんどんばしわたれ			
第10回	行事の歌 歌唱発音の確認と音楽表現の練習					年齢別歌唱			
第11回	季節の歌 歌唱発音の確認と音楽表現の練習					だるまさん・すうじのうた			
第12回	カノンによる2度、3度音程（ハモリ）と三和音のハーモニーの確認					あがりめさがりめ			
第13回	2部合唱、3部合唱による4度、5度、6度、8度音程（ハモリ）の確認					げんこつやまのたぬきさん			
第14回	前期授業まとめと前期試験曲の発表					おちゃらかホイ			
第15回	前期試験対策のレッスン					とうさんゆび・手をたたきましょう 他			
【学生に対する評価】									
実技試験（80%）、受講態度（授業への取り組み）（10%）、課題への取り組み（10%）									
【テキスト及び参考書】									
<p>テキスト：「こどものうた200」「続こどものうた200」（チャイルド本社）</p> <p>「保育士・幼稚園教諭小学校教諭養成のためのピアノテキスト」全国大学音楽教育学会九州地区学会（カワイ出版）</p> <p>「配布楽譜<新版>げんこつやまのたぬきさんによる合唱曲集-4-（東京わらべうた）</p> <p>参考書：「わらべうた～わたしたちの音楽～」（コダーイ芸術教育研究所）</p> <p>「わらべうたから始める音楽教育」（佐賀コダーイ芸術教育研究会）</p>									
【学生へのメッセージ】									
声（声帯）は、唯一、私たちみんなに与えられた楽器、神様からの贈り物だと思います。持ち運び自由です。自然な発声法をしっかりと学び美しい楽器（心身の解放と健康）を育て、より良い音楽指導が出来る保育者をめざしましょう。									
【備考】									
毎日の発声（歌うこと）はとても大切です。毎朝、鏡を見るときや通学時など、授業で学んでいることを注意し身体を動かしながら横隔膜を意識して声を出してみましょう。									
【担当教員の連絡先等】									
学校専用E-mail : shin@tohaya.ac.jp									

授業科目名	音楽Ⅳ（器楽）	担当教員名	石井 貴子	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
(1) 子どもの音楽表現活動に必要な演奏技能および表現技術を習得している。									
(2) 子どもの発達に即した教材の活用法について、実習の振り返りと考察を行い、授業および実習で実践できる。									
【授業の概要】									
音楽Ⅲで習得したピアノ技術を踏まえて、演奏技術の向上および表現力の向上を図る。指導内容は、音楽Ⅲに引き続き子どもの歌の弾き歌いを行い、演奏技術に加えて音楽表現指導法や声楽といった、他の科目との関連についても意識付けを行う。また、弾き歌いなどの課題曲については、保育のねらいや具体的な活動との関連について学習する。実習や就職試験を想定して、1年次の課題曲や子どもの歌などをレパートリーとして確認を行う。卒業後も、積極的に子どもと音楽活動を行える保育者の育成を目指す。また、音楽Ⅲに引き続き、担当教員によるインターネット上の模範演奏を、独習の補助教材として活用する。									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション 前期の振り返り、後期課題の確認				【事前】 ステップ1の課題曲1曲目、2曲目を練習する。 【事後】 授業内容を復習する。				
第2回	各自の課題設定				【事前】 ステップ1の3曲目、4曲目練習する。 【事後】 授業内容を復習および合格曲を練習する。				
第3回	歌詞の内容を理解した「歌」の表現力について				【事前】 ステップ1の5曲目、6曲目練習する。 【事後】 授業内容を復習および合格曲を練習する。				
第4回	歌とピアノとのバランスの理解				【事前】 ステップ1の7曲目を練習する。 【事後】 ステップ1前半のまとめを練習する。				
第5回	教育実習Ⅱに向けて弾き歌いの想定練習				【事前】 ステップ2の課題曲1曲目、2曲目を練習する。 【事後】 授業内容を復習する。				
第6回	部分実習グループシミュレーション				【事前】 ステップ2の3曲目を練習する。 【事後】 授業内容を復習および合格曲を練習する。				
第7回	ピアノ合格カード提出と課題の振り返り				【事前】 レベル確認で演奏する段階を選択する。 【事後】 担当講師による指定レベルと課題曲を練習する。				
第8回	担当講師によるレベル確認				【事前】 ピアノおよび歌詞の最終確認をする。 【事後】 レベル確認の演奏について振り返りを行う。				
第9回	第8曲目からの課題				【事前】 ステップ1の課題曲8曲目、9目を練習する。 【事後】 授業内容を復習する。				
第10回	教育実習Ⅱの反省及び就職活動への目標設定				【事前】 ステップ1の10曲目、11曲目練習する。 【事後】 授業内容を復習および合格曲を練習する。				
第11回	保育の現場で求められる音楽表現技術について				【事前】 ステップ1の12曲目、13曲目練習する。 【事後】 授業内容を復習および合格曲を練習する。				
第12回	先読みや声掛けなどの具体的な技術				【事前】 ステップ1の14曲目を練習する。 【事後】 ステップ1後半のまとめを練習する。				
第13回	季節や行事で演奏される課題曲のねらいについて				【事前】 ステップ2の課題曲8曲目、9曲目を練習する。 【事後】 授業内容を復習する。				
第14回	ピアノ合格カード提出と課題の振り返り				【事前】 ステップ2の10曲目を練習する。 【事後】 授業内容を復習および合格曲を練習する。				
第15回	担当講師によるレベル確認 後期のまとめ				【事前】 実技試験で演奏する段階を選択する。 【事後】 担当講師による指定レベルと課題曲を練習する。				
【学生に対する評価:各評価項目については評価割合(%)を含む】									
定期試験(80%) レポート提出および受講態度(復習と次回授業への予習を含む)(20%)による総合評価									

【テキスト及び参考書】

配布楽譜、「こどものうた200」「続こどものうた200」（チャイルド本社）

「保育士・幼稚園教諭小学校教諭養成のためのピアノテキスト」全国大学音楽教育学会九州地区学会（カワイ出版）

【学生へのメッセージ】

2年次前期は、1年次で習得したピアノ演奏の基礎技能に基づき、子どもの歌の弾き歌いを行います。実習での振り返りも踏まえて、実際の保育を想定した練習をしましょう。また、日頃から就職試験を意識した演奏を心がけることも大切です。2年間の学びを通して身に付けたピアノ技能と表現力を、実際の保育現場で展開できるよう授業に取り組んで下さい。予習復習の積み重ねを大切に授業時間を十分に活用してピアノに取り組みましょう。

【備 考】

配布プリント、楽譜は、1年次に使用したピアノノートに貼って使用する。

【担当教員の連絡先等】

担当 E-mail:ishii@tohaya.ac.jp

学校専用E-mail:

授業科目名	音楽と遊び	担当教員名	金子 珠世	単位数	1	授業区分	演習	開講時期	2年後期
【授業の到達目標及びテーマ】									
<p>(1) 幼稚園教育要領における領域「表現」および領域「環境」のねらい及び内容の全体像を理解している。</p> <p>(2) 保育・幼児教育における音楽表現活動を領域横断的に捉えることができる。</p> <p>(3) 生活や遊びの中での経験と子どもの音楽表現活動との関わりを理解している。</p> <p>(4) 身の回りの環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを取り入れ保育を構想する力を身に付けている。</p>									
【授業の概要】									
<p>子どもの音楽表現活動の基礎は、生活や遊びといった日常の中から芽生え、環境と関わりながら展開する。そのため保育者は、子どもが主体的に環境と関わる姿から、豊かな出会いとなる教育環境を構想する力が求められる。具体的な授業内容として、サウンド・エデュケーションの考えに基づいたサウンドウォークを行い、屋外環境を聴覚、視覚、嗅覚などで感受し、体験を通じた保育者の感受性や保育環境に対する意識付けを行う。</p> <p>一方、子どもの歌を言葉や文化、造形活動等の他領域から捉え、音楽表現活動を子どもの経験に基づき構想することを学び理解する。</p>									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーション －領域「環境」と「表現」との関わりについて理解する。				【事前】 シラバスを読んで授業内容を把握する。 【事後】 発達および幼小接続での三つの柱を整理する。				
第2回	散歩で表現ビンゴ －自然環境に対する気付きとそれによって引き出される表現活動を体験する。				【事前】 幼稚園教育要領領域「環境」「表現」を読む。 【事後】 活動内容を振り返り、領域「環境」と「表現」との関連について考察する。				
第3回	振り返りと教材製作 －体験に基き子どものためのビンゴを作成する。				【事前】 グループワークでの話し合いを準備する。 【事後】 子どものためのビンゴカードを作成する。				
第4回	散歩でビンゴ －附属幼稚園4歳児と散歩で表現ビンゴを行う。				【事前】 各自の役割、注意事項を確認する。 【事後】 子どもを観察する視点を考察する。				
第5回	振り返りとプレゼンテーション(1) －子どもと環境との関わりおよび表現活動について発表を行う。				【事前】 身近な環境を教材として捉える視点をもつ。 【事後】 発表をもとに自分なりの考えを整理する。				
第6回	振り返りとプレゼンテーション(2) －子どもと環境との関わりおよび表現活動について発表を行う。				【事前】 身近な環境を教材として捉える視点をもつ。 【事後】 発表をもとに自分なりの考えを整理する。				
第7回	小学校教育との接続 －領域「環境」「表現」と小学校教科との関連および指導について最新の動向をふまえて理解する。				【事前】 保育内容を領域横断的な視点から捉える。 【事後】 指導上の留意点と評価方法を確認する。				
第8回	まとめ －授業の振り返り 校歌指導				【事前】 保幼小の接続について教科書を読む。 【事後】 受講した内容と自己課題を整理する。				
【学生に対する評価:各評価項目については評価割合(%)を含む】									
作品、課題(80%) 受講態度(予習、復習を含む)(20%)による総合評価									
【テキスト及び参考書】									
「ふしぎだね。きれいだね。たのしいね。体験から学ぶ領域「環境」「表現」に関する専門的事項」(学校図書)									
「わくわく音遊びでかんたん発表会―手拍子ゲームから器楽合奏まで―」(鈴木出版)									
「こどものうた200」「続こどものうた200」(チャイルド本社)									
参考図書									
あたらしい音楽表現(音楽之友社)									
「幼稚園教育要領(文部科学省平成29年3月告示)」(フレーベル館)									
「保育所保育指針(厚生労働省平成29年3月告示)」(フレーベル館)									
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領(内閣府・文部科学省・厚生労働省平成29年3月告示)」(フレーベル館)									

【学生へのメッセージ】

子どもを取り巻く環境は、自然や人工物の音やモノなどから成り立っています。また、それらは身体を通して感受され、具体的な遊びや行為を通して経験されます。将来の保育者となる学生さんには、子どもの感受する姿を理解するために「わかること」よりも「感じること」の重要性に着目して、自身の感性を伸ばしてください。本校の自然環境を身体いっぱい感じて、子どもと楽しむ体験を一緒につくっていきましょう。

【備 考】

特になし。

【担当教員の連絡先等】

学校専用E-mail:shin@tohaya.ac.jp

授業科目名	社会的養護 I	担当教員名	爪田 瑠璃	単位数	2	授業区分	講義	開講時期	2年前期
【授業の到達目標及びテーマ】									
① 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 ② 子ども権利擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ③ 社会的養護の制度や実施体系などについて理解する。 ④ 社会的養護の対象や形態、関係する専門職などについて理解する。 ⑤ 社会的養護の現況と課題について理解する。 ⑥ 施設見学などを通して社会的養護の実際を理解する。									
【授業の概要】									
児童福祉施設では命を預かっている、そしてその命は「日本の未来」です。私たちは子ども最善の利益と最大の発達を守り育てていくことが使命です。そのためにはすべての子どもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自律し、自立した個人として楽しみながら健やかに成長することができること、それがどのような環境におかれている子どもにも等しく保障されることが活動に反映されなければなりません。 本授業では保育士養成課程の教科目の教授内容に準拠し、保育に必要な基礎知識の習得を基本に、学生の皆さんが理解しやすく、自ら考えることを重視した視点で進めていきます。(新・基本保育シリーズ第2版刊行にあたってより参考)									
【授業計画】					【事前・事後学習(学習課題等の具体的な内容)】				
第1回	オリエンテーションー社会的養護とは				【事前】	テキスト「はじめに」を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第2回	社会的養護の理念と概念				【事前】	テキスト第1章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第3回	社会的養護の歴史の変遷				【事前】	テキスト第2章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第4回	子どもの人権擁護と社会的養護				【事前】	テキスト第3章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第5回	社会的養護の基本原則				【事前】	テキスト第4章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第6回	社会的養護における保育士等の倫理と責務				【事前】	テキスト第5章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第7回	社会的養護の制度と法体系				【事前】	テキスト第6章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第8回	社会的養護のしくみと実施体系				【事前】	テキスト第7章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第9回	社会的養護とファミリーソーシャルワーク				【事前】	テキスト第8章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第10回	社会的養護の対象と支援のあり方				【事前】	テキスト第9章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第11回	家庭養護と施設養護				【事前】	テキスト第10章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第12回	社会的養護にかかわる専門職				【事前】	テキスト第11章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第13回	社会的養護に関する社会的状況				【事前】	テキスト第12章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第14回	施設等運営管理の現状と課題				【事前】	テキスト第13章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
第15回	被措置児童等の虐待防止の現状と課題				【事前】	テキスト第14章を読む			
					【事後】	「授業で学んだこと」記入、提出			
【学生に対する評価】									
授業への貢献度(5%)や参加意欲(15%)、レポート・提出物(80%)等による総合的評価									

【テキスト及び参考書】

『新基本保育シリーズ6 社会的養護 I』（中央法規）

『幼稚園教育要領』（文部科学省）（フレーベル館）

『保育所保育指針』（厚生労働省）（フレーベル館）

適宜プリント・資料類配布

【学生へのメッセージ】

社会的養護とはなにか、基本的な部分を学んでいきます。

座学中心ですが、アクティブラーニングを意識し、映像を用いた授業も実施予定です。

2年生の保育実習Ⅰ・Ⅲ（施設）を視野に入れた授業展開をします。

【備 考】

【担当教員の連絡先等】